

第六部 資料

五〇〇	四〇〇	三〇〇	一〇〇	前 一〇〇	前 三〇〇
古墳時代		弥生時代		縄文時代	
中期	前期	後期	中期	前期	後期
<p>須恵器生産始まる。畿内及び周辺に巨大な古墳が造営される。</p> <p>○馬場ヶ先古墳（和田山町池田古墳）</p>	<p>畿内及び瀬戸内沿岸で前方後円墳が造営されるようになった。</p> <p>○西気小学校裏山墳墓（城崎町小見塚・和田山町城の山・豊岡市森尾古墳）</p>	<p>倭国大いに乱れる。</p> <p>○久田谷（銅鐸）南八代田・祢布ヶ森東遺跡</p>	<p>弥生文化が関東地方まで波及する。高地集落が出現する。石製武器が発達する。</p> <p>○伊府遺跡（豊岡市亀ヶ崎・気比の銅鐸・八鹿町米里遺跡）</p>	<p>水稻耕作が大陸より北九州地方に伝わる。弥生文化が伊勢湾以西に波及し、青銅器の製造が始まる。</p> <p>○久田谷・伊府遺跡（出石町宮内黒田遺跡）</p>	<p>打製の石鍬と思われる石器が増加する。</p> <p>○祢布ヶ森東遺跡</p>
					<p>抜歯の風習が一般化する。</p> <p>○神鍋・山宮・水上・森山・伊府各遺跡（豊岡中谷貝塚）</p>

年	宝号	代	期	後	墳
					古
六〇〇		大化	2		<p>この頃より各地に群集墳が造営される。横穴式石室が普及する。 ○楯縫古墳群・岩倉古墳群・シゲリ谷古墳群など</p>
六四六		大宝	元		
七〇一		和銅	元		
七〇八		和銅	元		
七一一		和銅	5		
七三六		天平	8		
七三七		天平	9		
七四一		天平	13		
七四九		天平勝宝	元		
七五〇		天平勝宝	2		
七五六		天平勝宝	8		
七六一		天平宝字	5		
七六二		天平宝字	6		

大化改新の詔を發布（日本書紀）

8 但馬など一七カ国に蝗・大風の被害あり（県史）
 和銅開珎銭をつくる。同銭日高町観音寺より出土す（岡本久彦蔵）
 勅して丹波国・但馬国など二一ヶ国に綾錦を織らせる（続日本紀）
 但馬の疫病の徒、一七一二二人に粥糧料を給す（但馬国正税帳）

3・24 但馬の疫病の徒一四一二二人に粥糧料を給せられた（但馬国正税帳）

3・24 各国に国分寺・国分尼寺の造営を發願する（続日本紀）

8・9 外従五位下陽胡史真身但馬守となる（続日本紀）

8・20 高田駅家戸主牧田連麻呂の戸口丸部虫麻呂は、久しく船所に勤め既に食糧もつき、その辛苦の状を申請した（正倉院鳥兜下貼文）

9 但馬国司に命じて、正税で三〇〇一五歳の容姿端正な奴婢を貢わせ、送らせる

3・6 造東大寺司に貢進されていた二人の但馬の奴が逃げ帰ったので、但馬国司はこれを捕えて再び送り返した（東南院文書）

国分寺に聖武一周忌齋会に用いる荘嚴具を頒下された

国分尼寺に阿弥陀丈六像・脇侍菩薩像の造立を命ぜられた

この年、気多郡余部郷戸主私部意嶋は、東大寺に漆職工私部酒主を貢上した（寧楽遺文）

天平宝字年中（七五七―七六四）賢者仙人は菓師如来像を造り、大岡寺と満願寺に祀ったと伝う（大岡寺縁起）

八七九	元慶 3	天平宝字 7	763
八六八	貞観 10	天平神護 2	766
八六二	貞観 4	宝亀 8	777
八四二	承和 9	延暦 3	784
八四〇	承和 7	延暦 4	785
八〇八	大同 3	延暦 13	794
八〇四	延暦 23	延暦 15	796
七九四	延暦 13	延暦 4	795
七八九	延暦 15	平安遷都	794
七六六	延暦 13	平安遷都	794
七七七	延暦 13	平安遷都	794
七八四	延暦 3	平安遷都	794
七八五	延暦 4	平安遷都	794
七九四	延暦 13	平安遷都	794
七九六	延暦 15	平安遷都	794
八〇四	延暦 23	平安遷都	794
八〇八	大同 3	平安遷都	794
八四〇	承和 7	平安遷都	794
八四二	承和 9	平安遷都	794
八六二	貞観 4	平安遷都	794
八六八	貞観 10	平安遷都	794
八七九	元慶 3	平安遷都	794

9 但馬など六ヶ国稔らず（続日本紀）

但馬国分寺跡より天平神護2、3、4年の木簡等三六点出土

7・14 但馬国分寺の塔に落雷した（続日本紀）

12・18 但馬国気多郡穀外従六位上川人部広井は、私物を進めて公用を助けたため、

外従五位下を授けられた（続日本紀）

2・9 川人部広井は本姓を攻めて高田臣の姓を賜わった（続日本紀）

10・22 平安遷都

1・19 従四位上藤原内麻呂但馬守を兼任した（公卿補任）但馬など六ヶ国の婦女各

二名を陸奥に遣わして養蚕を習わせる（日本後紀）

1・26 但馬の国府を気多郡高田郷に遷した（日本後紀）

但馬国三駅を廢す。但馬国の飢饉に使者を遣わして施給する

5・2 養父郡・気多郡の兵庫の鼓がゆえなく鳴った（続日本後紀）

10・15 気多郡山神（山宮）・雷神（佐野）・戸神（十戸）・蜀椒神（椒）・城崎郡海神

（氣比）を官社に列せられた（続日本後紀）

11・25 但馬権主豊井王は、公廩を割りて幡十八旒を造り国分寺に施入した（三代実

録）

12・27 従五位下山神・戸神・雷神・蜀椒神・海神に従五位上を授けられた（三代実

録）

閏12・21 正六位上大岡神・左長神・七美神・菅神に従五位下を授けられた（三代実

録）

12・15 気多郡の前医師従八位上日置部是雄と無位日置部衣守は、火を放って不動繡

二〇四八斛五斗及び倉四を焼き、遠流の罪にされた（三代実録）

一一九二	建久3	一一八五	一一八一	一一五〇	一〇三八	一〇三五	一〇二六	九八〇	八八七
		文治元	永暦2	仁平元	長暦2	久安6	治安3	天元3	仁和3

- 6・2 但馬等一九カ国の貢絹粗悪のため国司をいましめ正倉と同様の絹一匹つつを諸国に与え、見本となす（三代実録）
- 12・1 夜但馬守堯時の邸に強盜數十人押入り財物を盗む（日本紀略）
- この頃、源頼光但馬守となる
- 4・19 但馬朝来郡司ら七人、但馬守藤原実経の苛政を訴す（小右記）
- 12・15 但馬国八幡宮司は国司と争い、太少史橋文俊を遣わして但馬守源則理を推問した（日本紀略）
- 10 但馬の百姓宮門に参集し訴状を上る（春記）
- 久安年中（一一四五―一一五〇）近衛天皇は観音寺を勅願寺とし、釈迦涅槃図絵を寄進されたと伝う（観音寺々伝）
- 8・17 進美寺は鳥羽上皇の御願所になったと伝う（進美寺縁起）
- 藤原時代のころ、国分寺薬師如来坐像及び井田神社四天王像二軀が造られたといふこの年、頼朝の命により小野時広奉行となり、進美寺に一万巻の観音経を転読させ、屋島にこもる平家の折伏を祈らせた（進美寺文書）
- この頃成勝寺年貢として但馬国浅間寺・八丈絹十二匹・紙百帖を寄す（祈雨法御書裏文書）
- 1・18 この日より進美寺は、三十三巻の長日説経を始め頼朝の萬歳を祈った（進美寺文書）
- 文治年中（一一八五―一一九〇）河本新八郎の先祖は、四国より出石郡に帰り太田氏に従ったといふ（河本文書）
- 5 法橋昌明、源行家を討ち、但馬国太田荘を恩給され、太田氏を称す
- 8 伊勢神宮領但馬国大垣・田公・太多御厨の貢上物を定めた（神宮雜書）

一一九三	建久 4
一一九四	建久 5
一一九七	建久 8
一一九九	正治 元
一二〇八	承元 2
一二一五	建保 3
一二二一	承久 3
一二二二	承久 4
一二二二	貞応 元
一二二三	貞応 2
一二二九	寛喜 元

3・28 美努神社へ大般若経を粟田口某により信読されたという（国府村誌）

5・13 源頼朝は散位小野時広をして進美寺に對し、法華経三千部、觀世音経十万卷を奉読させた（進美寺文書）

5・15 源頼朝は散位小野時広をして、但馬国の国衙の在庁大名等に命じて、関東祈禱所である進美寺に對する狼籍を禁じた（進美寺文書）

10・4 幕府は諸国に八万四千基の五輪宝塔を造立供養し、怨親平等の立場から保元以來諸国叛亡者の冥福を祈った。勅進奉行源親長は但馬国分三百基を開眼供養した（進美寺文書）

11・18 源親長は関東祈禱所進美寺に卷数一卷を進め、これを奉行した（進美寺文書）

3・13 越生有高は有弘の護狀に任せて、但馬国日置郷の地頭となる（法恩寺年譜）

9 鳥羽院庁は宣旨を下し、重ねて進美寺を祈禱所とした（進美寺文書）

7・24 北条義時は雅成親王を但馬国高屋に流し、太田昌明に守護させた（王代一覽）

3・14 雅成親王妃幸姫は親王を慕って但馬に下向し、松岡の里で入水された伝う（国府村誌）

7・7 仁和寺は寺領の但馬国新井莊を、氣多郡の新補地頭等の押領するを訴えた（仁和寺文書）

4 但馬守護太田昌明は、前但馬守護安達親長の子の所領地を没収し、進美寺油畠として寄進し毎日読経の料とした（進美寺文書）

12・24 幕府は仁和寺領但馬国新井莊地頭らの新儀非法を停止させた（仁和寺文書）

11・6 是より先き、進美寺住僧は但馬守護の日置畠等に對する押領を訴えた。この

一三〇〇	正安 2
一二九九	正安 5
一二九七	永仁 5
一二九四	永仁 2
一二八五	弘安 8
一二九〇	正応 3
一二七七	建治 3
一二七六	建治 2
一二七〇	文永 7
一二五一	建長 3
一二四七	宝治 元
一一三六	正和 5

- 日、幕府は守護所の濫妨を停止させた（進美寺文書）
- 6・4 越生有高は但馬国日置郷等の所領を有道・有直兄弟に譲った（法恩寺年譜）
- 9・18 幕府は建久五年の頼朝の下文に任せて、進美寺所領田畠に守護地頭等の押領狼籍するを禁じた（進美寺文書）
- 2・21 後醍醐院庁は安居院公禪をして、蓮台寺・吉祥寺・石和田保を本領主の寄進状に任せて進美寺領にさせた（進美寺文書）
- 12・11 越生長経は、但馬国日置郷等を越州入間郡越生郷松溪山法恩寺に寄進した（法恩寺年譜）
- 6・22 龜山上皇、院宣を下し重ねて蓮台寺・吉祥寺・石和田保等を進美寺領となし国衙の違乱することを停止させた（進美寺文書）
- 12 但馬守護太田政頼が、但馬国太田文を作製して幕府に注進した（但馬国太田文）
- 4・28 幕府は但馬守護太田政頼をして、御祈禱所寺社の修造と祈禱の巻数の執進を命じた（進美寺文書）
- 6・25 但馬守護太田政頼は進美寺に対し、破損修造と祈禱の巻数の執進を命じた（進美寺文書）
- 5・8 御室門跡が法眼覚乗をして、真光院の但馬国新井莊預所職の知行を命じた（仁和寺文書）
- 11・23 日置郷地頭越生氏は但馬国より姿を消した（法恩寺年譜）
- この年、河内国大春日重安が但馬気多郡東楽寺の鐘を造った（大日本金石志）
- 2・9 源忠員・尼妙真は、亡父秀能の菩提のため高田郷内の地を高山寺地藏菩薩燈油料所に寄進した（高山寺文書）
- 3 八代荘領家方は、八代荘安養院田所当米一〇石を安養院朝夕勤行料米として寄附

一三一九	元 応 元
一三三六	(建 武 元 3) 元
一三三八	(建 武 元 5) 3
一三三九	(暦 応 元 2) 4
一三四三	(興 康 永 国 2) 4
一三五二	(正 観 応 平 3) 7
一三五六	(正 延 文 平 元 11)

した(徳禅寺文書)

8・18 是より先き進美寺の悪僧阿闍梨俊昌は、本吉三郎資直の代官と称し、進美寺領を押領する事件起る。この日、同弟頼憲と共に僧俊澄・幸盛の里坊赤崎庄田所職の家に討ち入り二名を殺害し、さらに進美寺仏閣を焼払った(進美寺文書)

8・3 今川頼貞指揮下の伊達義綱は、南朝方進美寺の南中尾に攻め上り合戦した(伊達文書)

8・13 伊達義綱は荏原責口から城内に夜襲し、本堂・八角堂を攻め十四日これを追い落した(伊達文書)

6・3 光厳上皇が白河中将をして法勝寺領但馬国分寺を元の如く知行せしめた(国分寺文書)

この年、足利尊氏征夷大將軍となり、室町に幕府を開く
3・18 足利尊氏は進美寺攻囲の將士に軍忠の恩賞として兵糧料所を与えた(進美寺文書)

室町初期のころ、蓮生寺所蔵の阿弥陀二十五菩薩来迎図が作られた(蓮生寺縁起)

9・23 但馬国小佐郷地頭伊達朝綱は国分寺の陣に参加した(伊達文書)

9・27 同じく府中合戦には軍忠を立てた(伊達文書)

痘病流行

足利尊氏・安田修理亮氏義に対し、上総国一宮庄高根郷内大會祢太宰少式入道跡を勤功として宛行う(垣谷文書)

この年、伊達三郎藏人真信は北軍に味方して各地に転戦した。3・27 温泉城、5・18 宿南城・尾頸平、6・26 八代城・木崎城、8・7 大坪城、8・11 五荘城、8・16 水尾城、8・27 桑佐城、8・29 八代城、9・24 富栖城(伊達文書)

一三六四	正平	19
一三九二	元中 (明德3)	9
一三九八	応永	5
一四〇三	応永	10
一四二七	応永	34
一四四九	宝徳	元
一四六二	寛正	3
一四六七	応仁	元
一四六九	文明	元
一四七一	文明	3
一四八五	文明	17
一四八六	文明	18
一四九四	明応	3
一五〇五	永正	2

12・20 今川頼貞は但馬の安田法眼が国情を報告したことを謝した(垣谷文書)

「ばば焼」まつりを始めて行つ

6・17 進美寺の鰐口(径六〇cm)を造る(兵庫県指定文化財)▽12・30 垣屋時忠は三条大宮の戦いに、山名時濃の身代りとなり戦死した(垣屋系譜)

阿瀬鉦山を開くとも伝う(三方村誌稿)

8・24 土居妙円、進美寺の梵鐘を造る(鐘銘)

11・15 氣多神社の鰐口(径三六cm)を造る(鰐口銘)(町指定文化財)▽室町中期のころ観音寺仁王門を建立した(兵庫県指定重要有形文化財)

この頃、垣屋満成は金山に布金山隆国寺を建て、安養山西方寺も開基したという(垣屋系譜)

7・22 將軍足利義政は、但馬楽前北荘・同栗尾村の諸課役を免除した(曇華院文書)

1・18 応仁の乱おこる。▽5・26 在京の山名持豊(応仁の乱西軍)は分国の兵を徴し、垣屋・田結庄・八木これに応じた(村岡山名家譜)

4・1 垣屋宗忠は丹波普甲山に武田・天笠らと戦った(応仁広記)

3・22 山名頼忠は西党垣屋宗忠を豊岡九日市城に攻めた(応仁別記)

3・28 楽前城主垣屋宗忠は、播磨蔭木城で赤松政則と戦って垣屋越前守と共に戦死した(垣屋系譜)

1・6 垣屋遠忠は播磨国英賀にて赤松政則と戦い、息子、右衛門尉と共に戦死した(垣屋系譜)

この頃、安田源三郎統貞は播州森山城で討死した(垣谷文書)

6・2 但馬守護山名致豊は家臣垣屋統成と不和となっていたが、幕府はこれを和解

一五七六	天正 4
一五七五	天正 3
一五七四	天正 2
一五七一	元龜 2
一五七〇	元龜 元
一五六二	永祿 5
一五五九	永祿 2
一五三九	天文 8
一五二〇	永正 17
一五一四	永正 11
一五一二	永正 9

させた（はるのよのゆめ）

この年、垣屋統成は鶴ヶ峰城を築いて移り、宵田城主垣屋忠頭は楽前城に移った（垣屋系譜）

光顕寺宵田村より八代村字城ノ下に移り、九間四面の本堂を建立

8・5 観音寺本堂の建立を勧進した（観音寺文書）

宵田城主垣屋良国死す。豊知城主となる

8・22 伊福村河本新八郎は光秀に組して、善応寺合戦に際し、服部らを討ち、8・24 水生城を攻め、9・1 水生城を陥落させたという（河本文書）

この年、石州人某が桑ザコの鉾脈を発見し、阿瀬鉾山を採掘して幕府に献じた（三方村誌稿本・七十三番銀山方留書）

4・19 織田信長が垣屋豊統らに、今井宗久・長谷川宗仁を生野代官として差し下した旨を報じた（今井宗久書札控）、▽9・15 垣屋統成は岩井村養寿院にて田結庄是義に襲われて死んだ（垣屋系譜）、▽室町末期のころ、三方村真光寺の格後は、石山籠城戦に参加し、その留守中寺院が焼失したという（三方村誌稿本）

竹田城主赤松、軍兵を率いて出石城主山名豊国を攻む、田結庄左近将監、城崎郡の兵をもって山名を援け、赤松、竹田城へ退く（河本文書）

山名右衛門佐氏政、有子城を築く

7 轟城主垣屋宗時、塩治秀国を追落す

10 垣谷忠頭・同光成・同宗時は城崎郡宝城山にて田結庄是義を討つ（垣屋系譜）、光成・是義を滅し城崎郡を領す。光成は隠岐守・播磨守・小次郎・新九郎・重興・宗敬とも称す宵田城主のち鶴ヶ峯城主となる（垣屋系譜）

この年の春、策彦周良は垣屋光成の求めに応じて悦山の字号を記した（隆国寺文書）

一五七八	天正 16	一五七九	天正 17	一五八〇	天正 18	一五八一	天正 19	一五八二	天正 20	一五八三	天正 21	一五八四	天正 22	一五八五	天正 23	一五八六	天正 24	一五八七	天正 25	一五八八	天正 26
------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------	------	-------

この年、轟城主垣屋駿河守豊統は、秀吉の入但に備え気多郡水生城に出陣し、諸將と盟約籠城したという。この年、与治郎が茶湯釜を造る（長楽寺蔵・日高町指定文化財）

この年、宵田村は秀吉に町場を願っていた（田口文書）

4・24 羽柴秀吉が弟小一郎（秀長）に但馬征討を命じ、藤堂高虎・宮部善祥坊らこれに従う（信長公記）▽5・15 羽柴小一郎秀長が市左衛門以下四人に網による鮎漁を免許した（森垣文書）▽5・19 山名氏政は、是より先きの水生城合戦において織田方のために打ち取られた古志因幡守の武功を褒賞した（古志文書）▽5・21 是より先き秀長は出石城を攻め、この日山名祐豊は城中に討死し、山名氏政は逃亡して出石城は陥入り滅亡した（続太平記）▽轟城主垣屋駿河守豊統は水生城で拒戦したが及ばず秀吉に帰属した、▽6 垣屋光成は秀吉に降服した（垣屋系譜）▽6・13 垣屋豊統は宵田表合戦における岡遠江守の軍忠を賞した（田結庄文書）▽6・19 秀吉は垣屋光成を因州岩経城に入れる旨を長會我部元親に報じた（紀伊統風土記）▽8・16 宵田城主垣屋隠岐守峯信は羽柴軍と戦い、楽前城に通れこの日戦死した（垣屋系譜）

この年、小一郎秀長が鶴岡村八人の鮎漁を免許した（兵庫興漁業慣行録）

この年、垣屋光成が浦富木山城に封ぜられ、因州巨濃郡にて二万石を領した、▽10・11 小堀秀政内寺本久内が万場村と山田村との山境争論を裁定し、万場村の主張を認めた（田中文書）

この年、秀吉は生野奉行伊藤石見守をして阿瀬鉾山を管理させた（朝来誌）

11・29 出石城主前野長泰は田尻孫太夫に対し浅倉村の開墾を許し戸役を免除した（田尻文書）

この年、垣屋恒総は後陽成天皇聚落第行幸の前駆を勤めた（垣屋系譜）

一五九〇	天正18
一五九二	文禄元
一五九五	文禄4
一五九九	慶長4
一六〇一	慶長6
一六〇三	慶長8
一六〇六	慶長11
一六一〇	慶長15
一六一三	慶長18
一六二一	元和7
一六六六	寛文6
一六七四	延宝2
一六七六	延宝4
一六七八	延宝6

この年、垣屋恒総は秀吉の小田原陣に從軍した（垣屋系譜）▽天正年間（一五七三—一五九一）、大岡寺奥の院池泉觀賞式庭園がつくられた（兵庫県指定名勝）

2・23 垣屋光成死す（年七十余歳）（因幡民談）▽3 秀吉、但馬各領主に朝鮮國都への出兵を命ずる

1・27 出石城主前野長泰が江原村の諸役を免除した（田口文書）▽この年阿瀬奥金山が発見されたという

8・13 出石城主小出大和守吉政が江原町分の請米を七〇石に定めた（田口文書）
この年、杉原四郎兵衛長氏は、氣多郡のうち荒川外八ヶヶ村を賜わり、荒川に陣屋を置

く
2 徳川家康、征夷大將軍に任命され江戸幕府を開く
この年、杉原正永（荒川陣屋）、大阪冬夏の陣に從う。この年、南禪寺二六九世悦叔

禪師が大田寺を開基した（大田寺縁起）
この年、万場金山発見さる（生野史）

この年、石川弥左衛門は旗本受封、氣多郡のうち伊府外四ヶヶ村を領した
この年、悦叔禪師が語録を残した（日高町指定文化財）

この年、出石城主小出修理亮吉重は、三人の弟に五千石を分封する、小出宮内英本に二千石（倉見小出）、小出主殿英信に二千石（大藪小出）、小出縫殿英勝に千石（山本

小出・山本外五カ村）を分封し、山本小出は陣屋を山本に代官所を水上においた
この年、出石藩、藩札を発行する（田井氏諸色覚日記）

この年、大岡寺多門院（出石領）と河江・八代村（杉原領）との山論裁許さる（八代区文書）

この年、豊岡藩々札を発行する

六、年 表

一六八九	元 禄 2
一六九一	元 禄 4
一六九三	元 禄 6
一六九六	元 禄 9
一六九七	元 禄 10
一七〇〇	元 禄 13
一七〇一	元 禄 14
一七〇六	宝 永 3
一七一〇	宝 永 7
一七二〇	享 保 5
一七二一	享 保 6

この年、栗栖野（出石領）と太田・東河内村（小出領）とのしわが野山論裁許さる（和田文書）

この年、猪爪村（杉原領）と土居・松岡村（出石領）・山本村（小出領）とのさこ山論裁許さる（北見文書）

8 出石藩主小出播磨守は宵田町に対し、先例の如く諸役を免除した（熊田文書）

この年、太田村外八カ村は組合をつくり、庄屋の月番制と月例訴訟日を定めた（富森文書）

この年、出石藩小出家断絶後、地方知行制くずれる、▽11・1 出石銀札の事につき、手辺札場龍野屋太郎兵衛居宅へ乱入し騒動起る（田井氏家事要録）

6 生野代官所より逆罪、付火の者、生類に疵付損さし候者仕置の通達出る（富森文書）

この年、河江村と奥八代村との山論裁定さる（吉谷文書）

この年、篠垣村と佐田村の山論おこる（小谷文書）

この年、猿楽師花谷福太夫一行は、上田より仙石政明に随行来但した（手辺座の前身）（国府村誌）

この年、河江村と奥八代村との山論再発し裁定さる（吉谷文書）▽6 気多郡総百姓が奉行所へ貢租減免を愁訴した（富森文書）▽8・5 宵田市場につき上の市・中の市・下の市に割当てた運営規定できる（河本文書）

この年、生野領羽尻村外一カ村の年貢四分の一銀納はじまる（八鹿町史）▽この年、円山川河口より播州妻鹿までの大坂舟の運行願い出る（八鹿町史）

この年、八鹿舟と宿南・岩中・宵田・江原の馬持ち荷駄業者との紛争起る（熊田文書）

一七二二	享保 7
一七二四	享保 9
一七二八	享保 13
一七三二	享保 17
一七三七	元文 2
一七三九	元文 4
一七四〇	元文 5
一七四一	寛保元
一七四五	延享 2
一七四九	寛延 2
一七五三	宝暦 3
一七五六	宝暦 6

この年、大旱ばつ立木枯れ作物萎み飲料水欠乏する、京都愛宕山より火を得て細長谷口より根笹迄万燈を点す（清滝村誌）▽この年、羽尻・河畑村大洪水にて五戸流失（三万村誌稿本）

6 大痢病はやり年より子ども多く死す（国府村誌）▽10・14 椒外四カ村の山論和解協定なる（富森文書）

この頃日置村は柳を多く植え柳行季を製造する（但馬湯嶋道之記）▽この頃十戸で山葵栽培始まる

この年、水口村（出石領）と稲葉村（生野領）との山論裁定さる（中島文書）、▽この年神鍋を中心とする山論が解決し「そうだる節」が歌われるようになったという。

この年、堀、野々庄村（出石領）と奈佐路村（杉原領）との智生山山論裁定さる（奈佐路区文書）。この年、遊行上人来但し気多郡より人足を差出す（国府村誌）。この年、出石気多に雹降る、二〇匁に及ぶものあり多くの被害でる（国府村誌）

9・15 藩主仙石政辰は、宵田町に対し先例の如く諸役を免除した（熊田文書）

6 生野領気多郡一五カ村が、貢租銀納を願い出る（垣谷文書）

この年、十戸・庄境村（生野領）と頃垣村（出石領）との山論裁許さる（庄境区文書）

この年、八鹿舟持と馬持と紛争あり、八鹿舟の通行停止さる、延享三年四年とつづく（八鹿町史）

この年、洪水あり土居の土手切れ二人流され、命たすかる（国府村誌）

この年、磯野屋亀松は竹田より豊岡に至る航行の業円山川高瀬舟を開業する（校補但馬考）

この年、篠垣西組・伊府村と知見村との山論和解協定なる（柴垣文書）

一七六八	明和5
一七六九	明和6
一七七一	明和9
一七八一	天明元
一七八四	天明4
一七九二	寛政4
一七九四	寛政6
一七九八	寛政10
一八〇一	享和元
一八〇二	享和2
一八〇七	文化4
一八〇八	文化5
一八〇九	文化6
一八一〇	文化7
一八一	文化8
一八一四	文化11

土居村堤防決潰す

11 山田村禪台庵にて寺子屋を開く（西氣村誌）、▽この年幕府農民強訴鎮庄令を出す

この年、大洪水、伊福村一三軒流失、土居村堤防一三〇間決潰し二軒流失する

9・15 出石城主仙石久行は、宵田町に対し先々の如く諸役を免除した（熊田文書）

この年、久美浜領の村々強訴、代官所へ押寄せ騒動おこす（谷岡文書）

12 西下谷不穏となり、五所山に村々小前集まり騒動おきる（谷岡文書）、▽寛政年間手辺村の農村歌舞伎手辺座できる

遊行上人一行三九人來但

この年、出石藩、再び地方知行制復活する（富森文書）

この年、大岡寺多門院と山宮村との山論和解協定なる（大岡寺文書）

進美寺本堂建造のため、伊佐・宿南・日高・国府・三方二十八村延人四四五六人出役奉仕（国府村誌）

4・17 宵田村四〇戸焼失、岩中村五〇戸延焼（日高村郷土誌）

この年、野村一五戸焼失（三方村誌稿本）

この年、連日雨なく田植できず（国府村誌）、▽この年、生野領村々、貢租減免を願い出る（中島文書）

4・28 知見村六戸焼失（三方村誌稿本）

この年、長沢天淵が宮中御歌会に参列し俳句を献上した（国府村誌）

7 芝村に疫病流行し、三八軒一八一人のうち三五軒一四七人罹病し二〇人死亡した（谷岡文書）、▽この頃、桜井梅室が松岡村放鶴楼に遊ぶ（国府村誌）、▽この年、奈佐路村と堀・野々庄村との山論再燃し内済する（国府村誌）

一八四七	弘化4	文政12
一八四五	弘化2	文政13
一八四六	弘化3	文政4
一八四一	天保12	文政12
一八三七	天保8	文政11
一八三六	天保7	文政10
一八三五	天保6	文政6
一八三四	天保5	文政12
一八三三	天保4	文政3
一八三二	天保3	文政12
一八二九	文政12	
一八二八	文政11	
一八二七	文政10	
一八二三	文政6	
一八二一	文政4	
一八一六	文化13	
一八一五	文化12	

- 3・14 山宮村二戸焼失（清滝村誌）
- 関8・19 山宮村と大岡村との山論裁許さる（清滝村誌）
- この年、上田未生斎、『插花さくら香』を発行した（国府村誌）、▽文政年間人形か
しらを求め久斗文楽が始まったという
- 6 氣多郡一四カ村商人惣代、生糸売買規定を久美浜代官所へ願ひ出る（河本文書）
- この年、長沢蓼州は藩に対する抗議文を出した（国府村誌）
- この年、上郷村靈梅庵にて藤田天益が寺子屋を開く（国府村誌）、▽この頃、日置村
四七戸鶴岡村三〇余戸向日置二八戸焼失（日高村郷土誌）
- 9 頃垣村三戸焼失（西村文書）
- この年、山田村井上与三兵衛が私塾を開く（西氣村誌）
- 3 羽尻村河畑一四戸焼失（三方村誌稿本）
- 6 宵田市場規定乱れ、訴えて元の如く許可される（河本文書）
- この年、出石藩仙石騒動起り翌年三万石に減知される
- この年、諸国大飢饉凶年飢餓死亡多し
- この年、春より雨冷害にて飢饉疫病流行、米価高騰する（清滝村誌）、▽観音寺村飢
饉餓死者五人、八軒断絶する（観音寺過去帳）、八代村餓死者五九人あり（光顕寺
過去帳）、西下一一カ村組餓死者九三人病人二六四人あり（前田文書）
- 3・10 湯島入湯乗合船中郷村で難船四人水死す（校補但馬考）
- 8・21 府中芝村五一戸焼失（上坂文書）
- 3 夏栗村一戸焼失（日高村郷土誌）、▽この年、岸徳（岸連山）・岸岱が隆国寺本
堂襖絵を画く（日高町指定文化財）
- この年、不作飢饉（国府村誌）▽池田草庵宿南村に青深書院を建てる

一八五〇	嘉永 3
一八五一	嘉永 4
一八五三	嘉永 6
一八五四	嘉永 7 (安政元)
一八五五	安政 2
一八六〇	万延 元
一八六二	文久 2
一八六三	文久 3
一八六五	慶応 元
一八六六	慶応 2
一八六七	慶応 3

- 9・3 大洪水田畑損害大土居堤防決潰し家流される(国府村誌)▽阿瀬洪水一戸流
失(三方村誌稿本)
- この年、久斗村久斗庵にて僧道清寺子屋を開く(日高村郷土誌)
- この年、雨なく稻枯れる(清瀧村誌)
- この年、名色村と万場村との男山清水の水論おきる(飯田文書)、▽この頃、土居村
朝尾助左衛門寺子屋を開く(国府村誌)▽12・8 久斗村七三戸焼失(日高村郷土誌)
- 3・16 庄境村一九戸焼失、▽4・16 殿村ほとんど焼失(三方村誌稿本)、▽上郷
村赤木勝之(八々山人)、但馬国新図を発刊する、▽12・28 水口村と稲葉村の山論
内済する(西気村誌)
- 2・2 知見村一〇戸焼失(三方村誌稿本)
- 4 伏見寺田屋騒動により田中河内介護送中殺され甥の千葉郁太郎も日向国細島にて
殺害される年一八歳
- 10・12 生野の変おきる。土居村上田九左衛門、生野の変の農兵隊組織結成の主謀者
に加わる(国府村誌)、▽10・14 生野の変鎮庄のため豊岡藩軍勢は、蓮生寺に集結
し竹田に向う
- この頃、栗栖野村大円寺(医師小田根秀之進)、東河内村、万劫村、八代村(井東玄
龍)、藤井村(水原如蛭)に寺子屋が開かれた(西気村誌・八代村史)
- 6・25 西下谷二十数ヶ村の百姓千数百人が、庄屋酒屋等二十三軒を打ちこわし騒動
おこす(西田文書)、▽この年、輸出生糸の品質向上のため生糸改方手続を定める(河
本文書)、▽4・19 八代谷より府中・中筋・六方辺に大雹降る(安東文書)、▽8・
- 7 大風洪水・府中土手切れ一六軒・若宮社流失する(国府村誌)
- この年、久美浜領城崎・氣多・美含・二方四郡村々が貢租減免を願い出る(河本文

一八七三	明治 6
一八七二	明治 5
一八七一	明治 4
一八七〇	明治 3
一八六九	明治 2
一八六八	慶應 明治 4 (元)

書)、▽この年、生野領朝来・養父・出石・気多四郡一二九カ村が貢租減免を願い出る(河本文書)

1・28 山陰鎮撫使西園寺公望、豊岡より江原を経て八鹿へ進む、▽1 久美浜官軍執事が諸郡村々百姓へ討幕の達書を布告した、▽5・8 神仏混淆を禁止、▽この年、御札降りええじやないか踊りはやる(清滝村誌ほか)

1・20 久美浜役所円山川の通舟制限撤廃、▽8・4 久美浜県から生野県が分離設置、▽この年 天保につぐ稀有の凶作で米価高騰、久美浜県は4月から9月迄の救助米を下附。上郷村掘抜訴訟起る、▽8 洪水により知見村道路37間、堤防27間決潰、橋二ヶ所落ちる。全国の神社点検、仏教的なものを除去(排仏毀釈)、▽12・18 出石藩が兵制書を制定する

▽8・18 大洪水松岡で三戸流失、▽この年 蓼川堰が設置され、円山川の本流を中断して堰止め、上郷・中筋村一帯に通水。藩を廢して県とし、出石、村岡、豊岡、久美浜、生野の各県が生れる。羽尻19戸焼失

4・27 戸籍法制定、▽11・12 五県を統合し豊岡県とする

▽2 凡ての土地に地券(壬申地券)交付し売買を自由にした、▽4・8 宵田大火、51戸焼失、▽6・7 大区小区制実施、豊岡県を21大区、117小区に区劃し、大区に区长、副区长、小区に戸長・副戸長をおく。気多郡は第3大区で小区4、村数80となり庄屋、名主、年寄制度等廢止。統一戸籍帳(壬申戸籍)作成、初代大区長河本濱二郎、▽8・3 学制頒布、▽10・16 江原に郵便取扱所設置

1・1 太陽曆実施、▽1 徴兵令布告、20歳に達した男子は徴兵検査、▽6・5 東柳小学校、立光寺を仮校舎として開校。(7年10月1日祇布村東柳に新築移転)、▽7・28 地租改正条例発布、▽この年 宝林社(銀行)創立。豊岡生糸改会社設立

一八七四	明治 7	2・1 伊福小学校を開校、▽3 地租改正に伴う田畑地押丈量に着手、▽4・1 豊岡小学校内に小学校教員伝習所設置、翌年4月1日豊岡師範学校と改称、明治10年6月神戸師範学校に合併、▽6 江原生糸改会社設立、▽7・9 山田郵便取扱所を山田村に開設、▽7・15 府中小学校開校（明治3年府中新村に開校したものを引つゞ）、▽8 栃本小学校を栃本に開校。石井小学校を頃垣に開校、（栃本小学校は14年7月17日に養智、石井小学校は16年硯坪と改称）▽9・18 西気小学校開設、翌八年山田小学校とし山田村に移転、▽11・15 久斗小学校開校、▽12・18 谷学校、八代学校開校、▽12・25 荒川小学校を荒川に開校、▽この年 豊岡県病院分院として江原病院設置。地誌編纂に着手
一八七五	明治 8	2・13 日置大火、8戸焼失、▽8・15 森山小学校開校、▽この年 宮津に天橋義塾を設立
一八七六	明治 9	2・19 羽尻小学校開校、▽8・21 兵庫、豊岡、飾磨、名東（淡路）の各県を廃し兵庫県となる。第一回兵庫県会議員選挙、▽9・7 地下村と岩中村を合併し、岩中村とする、伊福村と多田谷村が鶴岡村、石立村と国分寺村が国保村となる。▽9・30 豊岡警察掛を兵庫県警保分局と改め、但馬一円を総括する、▽11・1 荒川小学校、森山小学校を合併し栗山小学校開校。▽この年 5月16日から7月5日迄50日間雨降らず、早害甚し
一八七七	明治 10	2 豊岡警察署設置、▽4・9 谷学校、八代学校合併して鳩峯小学校開校、▽4・30 竹田町大火、250戸焼失、▽但馬八郡連合会組合立中学校設立、▽西南の役起る、▽丘田松亭が十戸、庄境、頃垣3カ村入会山に蠟石山試掘を始める、▽山林原野の筆毎測量始まる、▽県立豊岡病院を但馬八郡の経営に移し、公立豊岡病院と改称
一八七八	明治 11	5 兵庫県立製糸場が移管設立さる、▽7・22 郡区町村編成法、府県令規則、地方

一八八五	明治18
一八八四	明治17
一八八三	明治16
一八八二	明治15
一八八一	明治14
一八八〇	明治13
一八七九	明治12

- 税規則を公布、▽9・24 但馬聖人池田草庵没、▽10 但馬八郡連立豊岡中学校開校、▽この年 兵庫県立養蚕伝習所が養父郡養父市場村に設置、▽蓼川堰の用水を西部に利用する水路完成し国府村、八条村の一带を潤す
- 2・7 栗山小学校の分校として司馬分校を芝村に田ノ口支校を田ノ口村に設置、▽6 山田小学校を共存小学校と改称し、校舎を水口村に建築、▽10・4 久斗小学校を静修小学校と改称、道場村に移転、▽10 城崎美合郡役所を豊岡に、出石気多郡役所を出石に、養父朝来郡役所を和田山に、七美二方郡役所を村岡に置く、▽この年 養蚕巡回教師が置かれる、▽久斗に兵庫県模範製糸場(四八人繰)移転、▽上郷掘抜訴訟終る
- 6 戸長役場制度改正、戸長選出、7 兵庫県警察出石分署の下に江原交番所設置、行政警察事務が取扱われた▽9・1 水上大火、4戸焼失
- 4・10 山宮に大火、61戸焼失、▽7・14 府中小学校新校舎竣工、▽この年 豊岡病院但馬8郡の経営を廃し、27カ町村組合立病院となる
- 6 江原、栃本間一等里道として開通、▽8・17 江原交番所を江原分署と改め豊岡警察署管下となり、警羅区域気多郡内77カ村となる、▽10・10 府中郵便局開設
- 1 江原分署新庁舎建設、▽8・13 神鍋太田に大火、22戸焼失、▽この年 拓産社が兵庫県模範製糸場の払下げをうける
- 2 小学校設置区域改定し、引野、鳩峯小学校区域を気多郡第4番学区とし、府中小学校に初等、中等、高等の三等をおく、▽7・25 栗山小学校を鶴峯小学校と改称、▽この年 浅倉に大火あり、33戸焼失、▽蓼川堰西側水路が五荘村、豊岡町迄延長
- 8・31 組合立豊岡中学校廃校、▽4 硯坪小学校を養智小学校の支校とする、▽12・13 江原郵便取扱所を江原郵便局と改称、▽この年 円山川に大洪水あり

六、年 表

一八八六	一八八七	一八八八	一八八九	一八九〇	一八九一	一八九二	一八九三
明治 19	明治 20	明治 21	明治 22	明治 23	明治 24	明治 25	明治 26
<p>1・17 岩中、宵田に大火あり、岩中15戸、宵田17戸焼失、▽8・14 円山川に大洪水あり、△この年 挿苗後旱魃で枯死多し</p> <p>4 小学校令発布。初等科を廃して尋常小学校四カ年、簡易小学校三カ年とする、▽11 阿瀬鉾山開坑に伴う公害について歎願書提出</p> <p>4・15 田ノ口に大火あり、57戸焼失、▽この年 気多郡蚕業組合ができる、▽馬鈴薯の種いも2貫農家に配布、試作させる</p> <p>2・11 大日本帝国憲法発布、▽4・1 町村制実施により江原外十二カ村を併せて日高村とす、国府村、八代村、三方村、西気村も同じく発足、▽5・11 第1回日高村議会が開かれる（各村とも議会開催）</p> <p>4・1 府中新郵便局を府中郵便局と改称、▽7・1 第1回衆議院議員選挙が行われる、▽8・2 大水あり、殿村被害大、▽10・30 教育勅語発布、▽この年 小学校令改正、簡易小学校を尋常小学校と改称、修業年限四カ年、高等小学校もおく、▽浅倉村に衛生組合が設置される</p> <p>2 八代に大火、17戸焼失、▽3 再度八代に大火、20戸焼失、▽7 東柳、伊福、静修の三校を合併、高等科併置を確定したが紛擾つづく、▽9・26 硯坪小学校を廃して養智小学校に合併する、▽この年 気多郡議事堂を借り、日高村役場を創設</p> <p>4・1 府中小学校に高等科を併置し、府中尋常高等小学校と改む。鳩峯小学校を八代小学校と改称、▽11・1 全小学校に天皇、皇后両陛下の御真影下賜、▽この年 大雪となる。（平地で1メートル30）</p> <p>4・19 株式会社府中銀行設立（資本金2万円）▽6・20 播但鉄道会社設立 ▽9 城崎、美合、気多郡役所設置、▽春以来70余日間降雨なく大旱魃、▽この年 9月10月2度に亘り大洪水あり被害甚し、10月の洪水で佐田の常光寺流失</p>							

一九〇二	明治 35
一九〇一	明治 34
一九〇〇	明治 33
一八九九	明治 32
一八九八	明治 31
一八九七	明治 30
一八九六	明治 29
一八九五	明治 28
一八九四	明治 27

▽9・11 株式会社江原銀行設立、(資本金2万円) ▽12・15 西気村より太田外6カ村を割き、清滝村を新しく置く、囊智尋常小学校を清滝尋常小学校と改称、▽この年 栃本村に衛生組合設置

7・8 共存尋常小学校を西気尋常小学校と改称、▽この年 大雪、(平地で1メートル40) ▽両陛下のご真影を下賜される。

4・1 江原村に私立江原高等小学校設立、▽4・1 兵庫県立豊岡尋常中学校開校、▽7・1 郡制実施、城崎美含気多郡役所の称を廢し、その区域を城崎郡と改む、▽この年 久斗振産社は中江種造経営久斗工場となる

4・1 県立八鹿簡易蚕業学校創立、(41年女子部併設。江原郵便局で電信事務開始日高村に郡立農事試験場設置、▽7・26 株式会社共立銀行を久田谷に設立、(資本金5万円) ▽この年 清滝村役場新築落成 ▽この頃 久斗縞の製造が盛んになる

4・15 鶴峯、司馬、羽尻、田ノ口の各尋常小学校を合併し三方尋常小学校となる、▽4 道場に火災、8戸全焼、▽5・16 府中新に火災、20戸全焼、役場も焼失

4・1 兵庫県立蚕業学校(甲種)が修業年限三カ年となる、▽7・1 私立江原高等小学校が廢され、日高村立日高高等小学校と改む、▽8・5 大雨で円山川増水(4メートル50)、国府地区浸水80戸、▽8・27 大暴風雨あり、円山川洪水、国府地区浸水200戸に及び被害夥し

4 隔離病舎新築、収容患者12名、▽9 産業組合法施行、▽9 西気尋常小学校を西気尋常高等小学校と改む

1 八代村農会を創立する。(以下各村に設立さる)

2・8 宵田大火、23戸焼失、▽2 麻疹大流行する、▽7 道場井堰普通水利組合設立、▽4 共同苗代を日高村に初めて設置、▽9 西気村青年会発会式挙行、▽こ

一九〇三	明治 36	の年 豊岡警察署日高分署と変わる
一九〇四	明治 37	置
一九〇五	明治 38	▽10 渋谷製糸工場久田谷に設立
一九〇六	明治 39	3・21 日高等小学校と東柳小学校と合併し、日高尋常高等小学校が発足、▽この年 八月から9月に亘って赤痢大流行、各校8月25日から9月30日迄臨時休校。▽9・16 円山川増水(5メートル12)、上郷橋流失、国府地区浸水19戸
一九〇七	明治 40	2・17 鶴岡合資会社(銀行)設立(資本金1万円)、▽4・1 播但線全線開通、▽6・1 夏栗に三木製糸場創立、▽6 浅倉に兵庫県種畜試験場設置、▽この年 日高村教育会設置、▽共同稚産飼育実施、▽昨年に引続いて赤痢大発生、10名の患者となる
一九〇八	明治 41	▽4・1 義務教育年限六カ年となる、▽8・23・24 円山川増水(5メートル45)、大洪水となる。国府地区浸水家屋109戸、罹災者137名、上郷橋流失、学校臨時休業、▽この年から犢駒せり売市場が開かれる
一九〇九	明治 42	2・15 日置に火災、15戸焼失、▽2・20 日高村学校問題解決、仲裁協定に調印、▽7・1 和田山、八鹿間に山陰線開通、府中小学校八鹿迄汽車見学に行く、▽7 府中小学校に私立府中幼稚園を附設、▽9 西気村購買販売組合設立、▽12・25 奈佐路青年会を初めとして逐次各部落に誕生、▽この年 神鍋山風穴が県蚕種貯蔵所として利用される、▽天然痘患者2名発生
		4・1 日置に火災、13戸焼失、▽この年 名色に大火10戸焼失、▽4・21 城崎郡立豊岡高等女学校開校、▽7・10 山陰線八鹿、豊岡間開通、江原駅開業。9月5日 城崎迄開通、▽この年 西気・八代・日高・国府・三方の連合青年会が発足する、▽

一九一〇	明治 43	
一九一一	明治 44	
一九一二	明治 45	(大正元)
一九一三	大正 2	
一九一四	大正 3	
一九一五	大正 4	

栃本に蒲乾燥所建設、▽鶴岡橋完成
 ▽4・24 村会議員選挙に際し、日高村学校問題に起因する紛擾起る、▽8・1 伊
 福尋常小学校と日高尋常高等小学校が合併し、啓成尋常高等小学校が生れる、▽9・
 16 日高村学校合併協定書に調印、円満解決、▽6 芝村信用購買組合が設立される、
 ▽11・1 電話が開通し、江原郵便局で公衆電話を開始する、▽12・10 阿瀬川水力
 電気株式会社設立発起人会開催、▽12・20 栗栖野郵便局で電信事務取扱いを開始す
 1・12 オーストリアからスキー初めて日本に紹介される、▽9・25 気多郡連合牛
 市場建設、▽11・19 啓成、静修小学校新築落成式、▽この年末生流華道を但馬周辺
 に広めた谷岡助右衛門の記念碑が羽尻村に建立される
 ▽3・1 那是製糸株式会社を城崎分工場と改む。工女10人、私設消防組設置、▽
 3・1 山陰線香住・浜坂間開通により、京都・出雲市間全線開通、▽3・8 西気
 小学校改築、▽3・22 円山川治水組合設立、▽5・24 金谷区16戸焼失、▽12・16
 府中小学校通学生上郷渡して舟が沈没、18名溺れる、▽この年 大風雨の為、増水
 (5メートル13)、国府地区95戸浸水、全壊32戸、府中小学校床上浸水40センチ、羽尻
 3戸倒壊、▽清滝村連合青年会発足
 12・31 阿瀬川水力発電所が運転開始し、初めて日高村に電燈がつく、▽この年 鶴
 岡大火、45戸全焼、3戸半焼、▽十戸山葵沢の拡張を行う、▽神戸市山野井喜代蔵が
 野村と蠟石山採掘について仮契約をする
 3・11 府中小学校増築工事完成、▽4 江原、石井間に乗合馬車が定期運行を初め
 る
 ▽10・8 洪水あり、円山川増水(4メートル30) 国府地区浸水30戸、府中小学校臨
 時休業

一九一六	大正 5	<p>4・1 岩中村と弥布村の各一部を合せ東構区を設置する、▽5 八代村信用購買組合設立、▽6・9 洪水あり、円山川増水、上郷橋一部流失、9月24日も同様、国府地区浸水25戸、▽6・29 礪石山採掘について山野井喜代蔵、宮嶋周蔵、品川白煉瓦、鈴木商店等が採掘権を争い品川白煉瓦が品川三方鉱山として開業する、▽8・15 清滝村信用購買組合設置、▽11・3 立太子奉祝式各地に行われる、▽この年 日置30戸焼失。</p> <p>2・2 1月から大雪、(平地で1メートル20)午後2時30分八代小学校東校舎大雪の為倒壊し、三、四年児童8名死亡、16名負傷、▽3・1 大岡寺村を大岡と改称、▽3 但馬に米穀検査が実施される、▽10・1 降雨の為増水、府中小に浸水臨時休校、▽11・25 円山川治水同盟会が結成される、▽この年 八代地区に初めて電話がつく。</p>
一九一七	大正 6	
一九一八	大正 7	<p>5 兵庫県原蚕種製造所を弥布に開設、▽8・15 米価暴騰、豊岡町内で、米騒動起きるもわが町に波及せず、▽9・14 洪水の為、円山川増水(5メートル10)、国府地区21戸浸水をはじめ各地区多大の損害を受ける、▽11・11 11月から12月にかけて悪性流行性感冒流行、▽12・10 庄境信用購買組合設立、▽この年 観音寺に「風通飛白織」が生れる</p>
一九一九	大正 8	<p>3 原蚕種製造所庁舎竣工、業務開始。4月から兵庫県繭検定所も開設する。この年 繭価高騰、▽3・16 栗山郵便局設立、▽6 竹貫信用組合ができる、▽7・7・18 稲葉川水力発電気株式会社設立、▽8・9 但馬鉄道株式会社設立、▽10・1 第1回国勢調査施行、▽この年 郡是製糸7棟焼失</p>
一九二〇	大正 9	<p>3・12 保証責任日高信用購買販売利用組合設立する、▽5・26 三方信用購買販売組合設立、▽11 稲葉川水力発電完成し、西気、清滝の全戸に初めて点灯、▽12・23</p>

一九二二	大正 11	西気村、清滝村電気事務組合設立、▽12・29 出石鉄道株式会社設立、▽12・30 府 中小学校校舎新築落成、▽隔離病舎増築起工 ▽7・20 日高村婦人会発会式挙行、▽10・6 出石鉄道起工式、▽10 上郷信用購 買組合設立、▽この年、隔離病舎増築落成
一九二一	大正 10	4・1 郡制廃止に伴い郡立豊岡高等女学校県立移管、▽5 日置字久語田に中但病 院設立、▽11・11 竹貫・芝両組合を合併し、国府信用購買組合を設立、▽11 原蚕 種製造所が兵庫県蚕業試験場と改称、▽12・28 江原自動車株式会社が設立されバス が初めて江原駅、栃本間に運行、▽この年 大洪水、713戸浸水、▽岩中字郷境に隔離 病舎移転建築
一九二三	大正 12	4・1 郡制廃止、▽5・4 飛行機豊岡に飛来、各校見学、▽6・22▽9・15 豪 雨により円山川増水、(5メートル75)、国府地区床上浸水48戸、床下浸水14戸に及 ぶ。江原警察署管内床下浸水703戸、▽7 兵庫県清和会誕生、各都市に支部設置され る、▽8 腸チブス大発生患者37名に及ぶ、▽9・1 関東大震災、▽11 十戸の湧 水を利用して鮭、鱒の孵化養殖を初めて行う、▽この年 栃本に簡易水道建設、▽神 鍋にスキーを導入し、スキー場を開発
一九二四	大正 13	4・1 日高上水道株式会社設立、▽4・12 清滝幼稚園開始、▽7・20 日高上水 道工事完成し通水開始、▽9・1 まくりデー設置、毎月全児童服用、▽この年 江 原銀行、共立銀行合併、株式会社甲子銀行発足、▽八代川県費支弁河川に編入、▽神 鍋山スキー場御机山斜面誕生
一九二五	大正 14	1 神鍋山岳スキークラブ結成し2月第1回スキー講習会を行う、▽3・1 初めて ラジオ放送聴取、▽4・27 向日置耕地整理組合誕生、▽5・23 北但大震災、午前 11時9分57秒、豊岡、城崎等を中心に死者48人、家屋倒壊125戸焼失家屋218戸に及ぶ、

一九二六	(大正 昭和) 元15
<p>府中小学校講堂天井墜落、負傷者なし、▽11・1 日高村が町制施行し日高町となる 1・13 日高町婦人会発足、▽2・3 但馬各地で県道編入、改修をめぐる贈収賄事件起る、▽4 中但病院解散、▽5・28 岩中、宵田、江原、耕地整理組合誕生、▽6・26 豊岡警察署江原分署を日高警察署と改称、▽7・1 各地区毎に青年訓練所設置(例、八代村立八代青年訓練所)。城崎郡役所廃止、▽この年 万場・栗栖野に簡易水道完成、▽この年 豊岡病院日高分院設立</p>	一九二七
<p>3・31 祢布に簡易水道完成、▽3・7 奥丹後地方大地震、▽6・30 鶴岡日置耕地整理組合設置、▽11 山田簡易水道完成、▽11・22 夏栗簡易水道完成、▽この年金融恐慌起る、▽初めて足踏廻転稻扱機使用する</p>	昭和 2
一九二八	昭和 3
<p>1・3 宝林、宝正、新栄、豊岡の四銀行を合併して但馬合同銀行設立、▽1・19 神鍋山にて関西スキー大会・明治神宮スキー大会開催、▽4・18 兵庫県北部乾蘆販売利用組合設立、▽6・25 降雨の為円山川氾濫、▽10・1 栗栖野局で電話交換事務開始、▽12・31 稲葉川水力発電株式会社は西気、清滝両村電気事務組合に譲渡、▽この年 第一回但馬連合婦人会が開れた、▽郡畜産組合牛市場建設</p>	一九二九
<p>4・1 兵庫県立清滝鮭鱒孵化場を十戸梅ヶ坪に設立、▽4・1 実業補習学校並青年訓練所を廃止し青訓充当農(商)業公民学校を各町村に設置、▽4・16 日高幼稚園、静修幼稚園設立、▽4 日高町消防組設置、自動車ポンプ購入、▽4 町立図書館誕生、▽7・20 出石鉄道工事完了、開通す、▽この頃から世界経済大恐慌に伴い農村不況起り、町村財政窮乏につき、教員給料不払い、俸給の七分乃至一割指定寄附</p>	昭和 4
一九三〇	昭和 5
<p>▽8・1 降雨の為円山川氾濫</p>	一九三一
昭和 6	<p>▽9・18 満州事変起る、▽10・13 豪雨円山川増水(6メートル)に達す。国府地区75戸、其他計229戸浸水、▽この年 米価暴落最低(石17円83銭)。公式スキージャ</p>

一九三二	昭和 7	<p>ンプ台を岩倉に建設</p> <p>4・2 鳥取歩兵四十連隊に動員令下る、▽6 各村議会教員俸給の強制寄附を決議、▽8 舞鶴・豊岡間宮津線全線開通、▽10・1 栗山局で電話交換事務開始、▽10 大日本国防婦人会創立、▽この年 岩中耕地整理組合設立、▽農会の自力更生運動起る、▽日高町職業紹介所設置</p>
一九三三	昭和 8	<p>3・31 日高町職業紹介所を廃止し、日高町外七カ村組合立職業紹介所設立、▽4 日高信用組合改築、▽7・1 日高町役場改築、▽10・20 降雨続き円山川氾濫</p>
一九三四	昭和 9	<p>2 この年豪雪。(山で約四メートル五〇)▽4・1 日高上水道町管移管となる、▽4・29 日高町外二カ村衛生事務組合に西気、清滝、八代の三カ村加入、▽7・13 国府村忠魂碑除幕式、▽9・21 第一室戸台風来襲、災害被害甚大、▽11・20 清滝小学校校舎新築落成式、▽この年 各町村に国防婦人会発足、▽蘭備最低を記録</p>
一九三五	昭和 10	<p>1・27 第一回県中等学校スキー選手権大会神鍋で開催、▽4 青年学校令公布され青訓充当農商公民学校を町村立青年学校と改称</p>
一九三六	昭和 11	<p>1・4 久邇宮家彦、徳彦親王、恭仁子女王、東久邇宮殿下ご一行神鍋山スキー場に御来場、▽1・24 感冒大流行、各校臨時休校、▽12・11 清滝郵便取扱所設置、▽12 県下七銀行を合併し神戸銀行を創立、▽この年 年末に大雪(平地で二メートル、西気地区二・五メートル)△赤崎耕地整理組合設立</p>
一九三七	昭和 12	<p>7・7 日中戦争起る、▽8 姫路第十師団に出動命令下る。(この年清滝だけで出征兵士61名)、▽9 日高警察署の屋上に防空監視哨設置、▽10・28 上海陥落、旗行列、夜、提灯行列、▽12・13 南京陥落、旗、提灯行列、▽この年 鶴岡橋完成、▽日吉区誕生</p>
一九三八	昭和 13	<p>2・6 国民精神総動員耐寒スキー行われる、▽2・25 日高町長太田剛太郎一カ月</p>

昭 和 19	昭 和 18	昭 和 17	昭 和 16	昭 和 15	昭 和 14
一九四四	一九四三	一九四二	一九四一	一九四〇	一九三九

間北支出征兵慰問の爲出発、▽4・1 国家総動員法公布、▽6 第6動員令下る。
 (日高町内応召43名)、▽7・1 豊岡職業紹介所日高分室設置(14年10月31日廃止)、
 ▽7 神戸に水害あり、救助隊派遣、▽10・27 武漢三鎮陥落、旗行列、▽この年
 全国の市町村に農地委員会設置、▽日高警察署日置に建築着工、翌年竣工
 1・25 勅令により消防組、防護団を改組統合し、警防団が設置され、日高警察署管
 内警防協会を結成、▽4・12 米穀配給統制法公布、▽4・26 青年学校が義務制と
 なる、▽7・8 国民徴用令公布、▽8・16 静修小学校土俵開き(各校にも土俵場
 出来る)、▽9・14 日高町水防組設置、▽この年 神鍋スキー連盟結成、▽11・30
 江原自動車株式会社は全但交通株式会社に合併
 2・2 代議士齋藤隆夫、衆議院の本会議で对中国政策を批判し質問演説を行い、3
 月7日議員除名される、▽5 各学校勤労奉仕隊を組織し勤労作業にあたる、▽9
 部落会、町内会に隣保設置の通達あり、隣保組織発足、▽10・12 大政翼賛会発足
 2 各町村毎に翼賛壮年団を結成、▽4・1 小学校を国民学校と改める、▽この年
 米穀配給通帳制の実施、▽12・1 府中銀行が全但銀行に合併、▽12・8 太平洋戦
 争起る、▽12 飯行李割当強化、▽12・23 芝向野耕地整理組合設立。
 1・1 食塩、味噌、醬油配給制実施、▽2・1 衣料切符制実施、▽8・1 北但
 地方事務所開所、▽12・28 各町村に国民健康保険組合設立。
 1・22 各村で勤労報国隊、女子挺身隊の結成、▽1・26 兵庫県北部乾繭組合廢
 止、神戸製鋼所日高工場となる、▽3・15 太田に大火、22戸焼失、▽4 警察機構
 簡素化により日高警察署廢止、警部派出所となる、▽8・12 山宮、栃本に大火、7
 戸焼失。清滝村役場類焼
 3・31 西気、清滝両村電気事務所組合は解散し、関西配電株式会社に總てを移譲す

一九四八	昭 和 23	<p>る、▽5・1 出石鉄道、鉄材一切を撤去さる、▽7・5 出石鉄道代行バス、トラック運行、▽8・21 神戸市立志里池国民学校四、五、六年、日高、三方、清滝地区に35名集団疎開で来町、▽9・17 台風あり、風による被害多し、▽11・20 清滝女子挺身隊が勤労報国隊を結成し芦屋、加古川、宝塚市に出動、▽この年 日高、国府、八代、三方、西気、清滝農業会設立、▽軍用飛行機、城崎郡民号2機、日高町民号1機、組合製糸号1機を献納、▽翼賛壮年団献米運動実施、▽各小学校に製炭を命じその数量を割当る。</p> <p>5 戦時教育令公布、6月22日全小学校学徒隊結成、炭焼き、食糧増産、兵式訓練本格化する、松根油を造る、▽5・1 日高警部派出所を日高警察署と改称、▽7 米機の来襲、日を追って頻繁になり米機B 29の単機又は編隊が毎日の様にこの町の上空を通過する、▽7 塩船が敵弾で浸水し津居山沖に避難、▽8・15 太平洋戦争終る、▽9・18 枕崎台風来襲、農作物に大被害を与える、▽12 全但銀行、神戸銀行に合併。</p> <p>1・7 神戸製鋼日高工場再開、従業員百名、▽2・1 第一次農地改革実施、▽3・1 各学校の御真影奉還、引続き各校の奉安殿撤去、▽この年 若林区民離村。</p> <p>2・10 三方農民組合結成、▽4・1 各町村の警防団を改組し、自治体消防団を結成、▽4・1 6・3・3の教育制度実施、国民学校を小学校と改称、高等科は新制中学校となり、4・22町立日高中学校、村立三方中学校、国府村八代村組合立府中中学校、西気村清滝村組合立神鍋中学校設置、▽8・1 日高町消防団を発足、▽10・1 日高町公民館設置、図書館併置、▽11・29 天皇陛下中国地方並びに豊岡に巡幸の為江原駅通過される</p> <p>1・28 府中中学校八代分校開校、▽1・31 日高町警察署廃止、▽2・1 国家警</p>
一九四六	昭 和 21	
一九四七	昭 和 22	
一九四五	昭 和 20	

一九四九	昭和 24			
一九五〇	昭和 25			
一九五一	昭和 26			
一九五二	昭和 27			
<p>察兵庫県城崎南警察署が設置さる、▽2・1 自治体警察署設置、▽自治体消防発足、▽4 日高町商工会設立、▽8 農業会を解散し、六地区とも農業協同組合設立 ▽11・3 日高町公民館がモデル優良公民館として文部省表彰を受ける。▽11・27 八代村国民健康保険組合設立、▽11 兵庫県教育委員会発足、▽この年 国府駅誕生。神鍋スキー協会結成</p>	<p>4・1 蓼川水路改修に着工(29年3月完成)、▽5・5 日高中学校新築落成、▽6・17 自治体警察庁舎新築、▽10 蓼川保育園開園、▽11・1 八代簡易郵便局開設、▽12 奥神鍋スキー場開設、▽この年 消防自動車購入</p>	<p>3 衣料切符制の廃止、▽4・1 豊岡高等学校校定時制日高分校を開設、▽5・25 香住銀行日高支店開設(但馬銀行) ▽6・25 朝鮮戦争起る、▽8 第一回野球選手権大会開催、▽8・26 上水道第二次拡張事業に着手、▽9・3 ジェーン台風来襲、被害甚大</p>	<p>2 上郷土地改良区設立、▽4・1 農業委員会設置、▽8・24 但馬信用金庫日高支店開設、▽9・21 小河江に大火あり、14戸中7戸焼失、▽9・25 日高町自治体警察制度の存否について住民投票、廃止賛成過半数を占める、▽10・1 日高町自治体警察署廃止。同時に国家警察兵庫県城崎南警察署も廃止。新たに国家地方警察日高警察署を設置、▽10・15 ルース台風来襲、▽12・1 万場高原スキー場開設</p>	<p>3・1 府中中学校舎竣工、▽3・27 国府、赤崎、浅倉土地改良区設立、▽4・10 三方幼稚園認可、▽4 十戸鱒アメリカに初出荷。37年輸出中止、▽6・20 出石鉄道名実共に営業を閉じる、▽7・1 国保を国分寺と改称、▽9・25 神鍋中学校を閉じ清滝、西気の二中学校を開校す、▽11・16 各町村に公選による教育委員会発足、▽この年 国府地区松岡に上水道がつく、▽この年 西気村国民健康保険組合設</p>

一九五三	昭和 28	立 2・1 NHKテレビ放送開始、▽9・25 13号台風により円山川増水、▽11・1 町村合併促進法施行、▽この年 西気村診療所開設、▽西気幼稚園開設、▽国分寺・ 水上土地改良区設立、▽神鍋スキー協会を神鍋観光協会に改組 2・8 高松宮殿下スキー場視察の為に来町、▽2・19 日高、西気、清滝、三方、 八代、国府六カ町村の幹部が合併に対する話し合いを始める、▽6・30 国家地方警察 日高警察署が日高警察署と改称、▽9・26 台風15号により12戸全壊6戸半壊、▽ 10・15 日高中学校屋内体育館竣工、▽11・1 静修保育園開設、▽12・15 宿南村 の内浅倉、赤崎両区を日高町に編入を議会で可決、▽12・26 町村合併促進協議会の 初会合開催、▽この年 石井発電所が始動する、▽初めて奥神鍋にスキーリフト完成 1・15 栗栖野郵便局を神鍋郵便局と改称、▽2・1 浅倉・赤崎二部落を日高町に 吸収合併、▽3・22 太田・栗栖野の区名を神鍋に変更、△分尾区離村、▽3・25 国府村、八代村、日高町、三方村、清滝村、西気村の六町村を合併し日高町として発 足、▽4・10 初代町長森垣利助就任、議員31名旧町村単位で選出される、▽4・17 日高町青年団発足、▽4・23 教育委員選挙、▽4・25 第一回臨時議会を開く、▽ 5・6 分町陳情書提出され以来32年迄紛糾つづく、▽5・17 日高町社会福祉協議 会発足、▽7・15 日高町公民館設立、▽7・18 日高町公益質屋が業務を開始、▽ 7・25日高広報第一号を発行、▽7・30 北但地方事務所が廃止され北但財務事務所 を設置。町内初のプールが日高中学校に出来る、▽8・4 日高町婦人会発足、▽ 8・6 消防団発足、▽12・1 山宮スキー場開設 2・11 第一回県中学校スキー大会が神鍋スキー場で開催、▽3・10 道場堰灌漑排 水改修工事完成、▽4・1 地方財政再建促進特別措置法の適用をうける。▽4・1
一九五四	昭和 29	
一九五五	昭和 30	
一九五六	昭和 31	

一九五七	昭和 32
一九五八	昭和 33
<p>新日高町の国民健康保健組合設立、▽4・8 役場の支所を連絡所とする、▽4・23 町内6農協により上郷に家畜管理所を建設、▽4・28 千代の山、栃錦等大相撲力士来町興行、▽5・3 日高町章決定、▽8・28 関西電力阿瀬発電所が運転開始、▽9・1 八代保育園認可。▽9・5 日高町野外活動研究会結成、▽9・26 芦田区明星子供会文部大臣表彰をうける、▽9・24 但馬銀行は豊岡市の一行を除いた但馬の神戸銀行支店の営業を譲りうける、▽11・24 日高町産業会館落成、▽12・2 西気中学校卓球チーム県優勝、▽この年 公選による教育委員が任命制となる、</p> <p>2・1 兵庫県日高警察署は警察機構改革により豊岡警察署日高警部派出所となる、▽2・7 第1回スキーカーニバル開催、▽2・14 第12回国民体育大会冬季大会スキー競技会が神鍋スキー場で開催、▽3・1 稲葉川を利用した岩中発電所完成、▽4・1 豊岡高校(定時制)日高分校に昼間部設置、▽4・17 山陰線に初めてディゼル機関車運行、▽5・15 日高町役場新館完成、▽5・20 日高町社会福祉協議会が全国表彰をうける、▽6・12 三方小学校金山分校開校、▽6・19 国府地区の一部分町問題解決、▽7・22 兵庫県養鱒漁業協同組合設立、▽7・10 神鍋そうだろ節保存会設立、▽9・10 町内大岡に初めてテレビが登場、▽12・17 八代小学校の大岡分校開校</p>	<p>1・1 国府地区の上佐野、納屋が分町し、豊岡市に編入、▽1・15 第1回成人式を行う、▽3・17 上水道第三次拡張事業に着手、▽6 兵庫県蚕業試験場が兵庫県立蚕業試験場と改称、▽7・1 日高町議会議事務局設置、▽8・2 日高地区の平和塔除幕式、▽8・25 上郷に塵芥焼却場が完成、▽9・1 日高町清掃組合発足、▽10・1 日高町農業改良普及所設置、▽10・11 日高町森林組合発足、▽12・15 日高町議会が県議長賞をうける、▽この年 各区に子供会誕生</p>

一九五九	昭和34	<p>1・1 国民健康保険が皆保険となる、▽1・24 第1回西日本スキー大会が神鍋スキー場で開催、▽3・24 豊岡高校日高分校独立校舎落成、▽4・15 国府地区上水道拡張工事完成、▽4・30 第2代町長太田了二当選、▽6・30 江原郵便局新築落成、▽7・5 町内で初めて日高小・中学校の学校給食が実施される。▽7・19 NHKのど自慢コンクール開催、▽7・21 神鍋山を含む地域が県立但馬山岳自然公園に指定、▽9・25、26 伊勢湾台風あり、家屋流出5戸、全壊10、半壊30戸、床上浸水56戸、作物被害等6億円に及ぶ。災害救助法適用さる。▽10・15 西気中学校女子卓球部近畿大会で、団体優勝、個人準優勝、▽10・29 三川山マイクロウエーブ竣工</p> <p>3・1 江原駅地下道完成、▽4・1 国府村誌上巻発刊、▽4・1 日高町無拠出年金制度創設、▽4・17 ボーイスカウト城崎第一団結成、▽5・3 国府地区全域上水道給水完成、▽7・1 日高町心配ごと相談所開設、▽7・16 役場連絡所を廃止、▽8・29 台風16号来襲、▽12・1 神鍋第二ゲレンデ新設、▽この年 日高町消防団特設分団設置</p>
一九六〇	昭和35	<p>2・2 日高町議会全国表彰をうける、▽4・1 拠出制年金制度が誕生、▽8・11 ヘリコプターによる水稻病虫害防除(空中から400ヘクタールに農薬散布)。▽9・16 第2室戸台風あり。被害甚大、▽9 府中土地改良区(堀、野々庄、府市場)設立、▽9・23 六農協による農協機械センター完成、▽9・27 町議会議員の定数を30名から24名とする、▽9・29 井上靖、松本清張、高橋義孝三講師の文化講演会開催、▽9・30 国府駅構内復線工事完了、▽11・30 上郷橋が完成、▽この年 中学校統合専門委員会設置</p>
一九六一	昭和36	<p>2・6 赤崎橋完成、▽3・20 豊岡高校日高分校全日制分校(女子家庭科)に昇格、▽3・25 祢布地区上水道給水開始、▽3・31 財政再建6カ年計画終る、▽</p>
一九六二	昭和37	

一九六六	昭和 41	
<p>5・1 町立養護老人ホームことぶき苑開設、▽この年 金山区民離村。 1・17 町立火葬場新築落成、▽1・28 第5回高松宮杯西日本スキー競技大会が宮様を迎えて神鍋スキー場で開催、▽3・31 三方小学校の金山分校、八代小学校の大岡分校を廃止、▽4・1 国民健康保険で世帯主のみ7割給付となる、▽4・17 県会議員選挙区改正、▽4・30 太田了二町長無投票で再選、▽7・1 町老人クラブ連合会結成、▽7・25 大岡区8戸集団移転完了、▽10・16 神鍋床瀬林道開通、▽10・21 近隣の一市六町とともに低開発地域工業開発地区の指定をうける 1・23 岩中、浅倉の桜並木を道路拡張の為、約百本伐採、▽2・1 日高町読書会創立、▽3・31 町公益質屋閉鎖、▽4・1 日高町外一市二町「し尿処理場」一日市に完成、▽12 但馬文教府豊岡市妙楽寺に設置、▽12・25 神鍋観光センター完成</p>	一九六五	昭和 40
<p>1・1 国民健康保険の家族給付が7割に引上げられる、▽1 日高病院を日高分院と改称、▽1・25 第7回高松宮杯西日本スキー競技会開催、▽2・14 神鍋で常陸宮ご夫妻を迎え、第20回国民体育大会冬季スキー競技会開催、▽4・1 豊岡高校日高分校に衛生看護科新設。農業共済事業町に運営移管。町内六中学校を二校に統合、八代中、府中、日高中が日高東中学校とし、三方中、清滝中、西氣中が日高西中学校としてスタート、▽9・10 台風23号来襲、▽9・17 台風24号来襲、▽11・3 この年から文化の日に成人式を行う、▽12・1 西神鍋（現アルペンローズ）スキー場開設、▽12・27 「日高町民のうた」決定</p>	一九六三	昭和 38
<p>3・31 国府、八代、日高、西氣、清滝農協合併し、日高町農業協同組合として発足、▽3・31 上郷畑区画整理事業が完了、▽4・1 円山川が一級河川となる、▽4・1 豊岡病院日高分院が日高病院となる、△4・1 上水道第四次拡張事業着</p>	一九六六	昭和 41

一九六九	昭和44	<p>4・1 豊岡高校日高分校が独立して兵庫県立日高高等学校となる、▽4・1 日高町観光協会設立、▽4・10 田植機が初めて使われた、▽4・10 神鍋山、蘇武一带(選手権大会名称変更)</p> <p>20 伊府、猪子垣、芝、野、庄境を上水道給水区域に編入する、▽町民野球大会開催</p> <p>▽9・22 コンバインが初めて使用される、▽11・27 町内で初めて交通信号機が出来る、▽12・1 名色高原スキー場、カンナベファミリースキー場開設、▽12・20 伊府、猪子垣、芝、野、庄境を上水道給水区域に編入する、▽町民野球大会開催</p> <p>▽5・1 日高建築高等技能専門学校設立、▽7・25 日高小学校プール完成、▽7・25 コンバインが初めて使用される、▽11・27 町内で初めて交通信号機が出来る、▽12・1 名色高原スキー場、カンナベファミリースキー場開設、▽12・20 伊府、猪子垣、芝、野、庄境を上水道給水区域に編入する、▽町民野球大会開催</p> <p>▽2・1 豊岡高校日高分校が独立して兵庫県立日高高等学校となる、▽4・1 日高町観光協会設立、▽4・10 田植機が初めて使われた、▽4・10 神鍋山、蘇武一带(選手権大会名称変更)</p>
一九六八	昭和43	<p>3 社会福祉法人日高社会福祉協議会が設置される、▽3・29 県文化財指定(栃が谷平のアスナロ群生・観音寺・仁王門)、▽4・1 日高町給食センター施設完成、▽4・1 県立蚕業試験場に兵庫県繭検定所を合併、▽4・1 水道事業所設置、▽4・8 統合日高東中学校新校舎完成、開校式を行う、▽4・1 町立西気僻地保育所開設、▽5・1 日高建築高等技能専門学校設立、▽7・25 日高小学校プール完成、▽9・22 コンバインが初めて使用される、▽11・27 町内で初めて交通信号機が出来る、▽12・1 名色高原スキー場、カンナベファミリースキー場開設、▽12・20 伊府、猪子垣、芝、野、庄境を上水道給水区域に編入する、▽町民野球大会開催</p> <p>▽2・1 豊岡高校日高分校が独立して兵庫県立日高高等学校となる、▽4・1 日高町観光協会設立、▽4・10 田植機が初めて使われた、▽4・10 神鍋山、蘇武一带(選手権大会名称変更)</p>
一九六七	昭和42	<p>手、▽4・15 三方農協有線放送開始、▽6・12 神鍋高原グラウンド完成、▽7 日高東西統合中学校舎建築始まる、▽7・15 但馬国分尼寺の発掘調査開始、▽8・1 上石簡易郵便局開設、▽11・10 町文化協会結成、▽11・23 NHKのど自慢素人演芸会が行われる、▽この年献血友の会結成さる</p> <p>▽2・1 第9回高松宮林西日本スキー競技会を神鍋山で開催、▽2・20 日高病院の病院舎新築落成、▽3・15 農業用トラクター初めて使用、▽3・31 県文化財指定(栃本溶岩瘤)、▽4・1 農業委員の定数30名から20名になる、▽4・28 町長選挙で太田了二無投票三選、▽4・28 近畿大学豊岡女子短大開校、▽7・20 静修小学校プール竣工、▽9・1 統合日高西中学校新校舎完成開校式を行う、▽9・1 日高有線放送開始、▽10・18 台風24号来襲被害甚大、▽11・17 優良自治体として自治大臣表彰を受ける</p>

一九七二	昭和 47	一九七〇	昭和 45
<p>1・24 神鍋高原体育館完成、▽2・14～18 全国高等学校スキー大会神鍋山で開催</p>	<p>1・22 西気小学校鉄筋校舎完成、▽4・1 日高町消防団組織改編、▽4・5 国府駅の地下道が完成、▽5・1 国府県営住宅12戸完成、▽7・20 府中小学校プール完成、▽8・21 C58蒸気機関車日高小学校校庭に設置、▽8・31 台風23号の為に集中豪雨、(水位四、六メートル)、▽9・1 日高町史編集専門委員会を設置し、日高町史編集に着手、▽9・30 豊岡総合庁舎完成、▽10・1 老人医療無料制度が誕生、▽11・1 町森林組合解散、北但東部森林組合が結成される、▽12・1 大岡山スキー場が誕生、▽12・1 神鍋山頂にNHKテレビ局舎完成、▽12・10 八代小学校校舎改築。▽この年 十戸観光協会設立</p>	<p>2・3 日高テレビ局道場に開局、▽3・20 電話が自動式になる(日高局)、▽3・7 三方小学校増築六教室完成、▽3・31 こくふ保育園認可、▽4・1 日高高等学校衛生看護専攻科設置。▽この年から米の生産過剰が深刻化し生産調整に入る、▽5・2 栃本大橋完成、▽5・11 植村直己エベレスト(八、八四メートル)登頂に成功、▽6・1 三方保育園認可、▽7・15 日高町体育協会設立、▽7・22 日高東、西中学校プール完成、▽9・28 日高高等学校専攻科独立校舎完成、▽9・16 神鍋高原ゴルフ場がオープン、▽10・1 第十一回国勢調査が行われる、(人口一九、五九二、世帯四、五〇一)、▽11・3 全日本モトクロス選手権大会が神鍋で開催、▽12・12 藤井・奈佐路・谷を上水道給水区域に編入、▽12・15 国府駅無人駅となる、▽12・25 日高幼稚園舎竣工</p>	<p>が氷ノ山後山那岐山国定公園に指定される、▽この年 円山川右岸土地改良区設定。名色、神鍋間農免道路完成、▽8 日高小学校校舎増築、▽10・25 森垣壮が無投票で第三代町長に当選</p>

一九七三	昭和48
一九七四	昭和49
一九七五	昭和50

予定が暖冬で中止、▽2・27 神鍋地区簡易水道完成、▽3・24 県文化財指定(旧大岡寺庭園)、▽3・25 八代生活改善センター完成、▽4・1 日高蚕業指導所廃止、豊岡蚕業指導所に統合、▽5・24 町花(石楠花、つつじ)町木(もみじ)町鳥(うぐいす)を制定、▽5・28 「公民館だより」第一号発刊、▽7・12 大雨の為円山川氾濫、▽7・17 西気小学校プール新設、▽7・30 プレイヒルカンナベゴルフ場がオープン、▽9・16 台風20号来襲、▽この年 清滝小学校校移転増築、上郷麩芥焼却場が完成、▽11・15 阿瀬観光協会が設立される

3・9 県文化財指定(進美寺罌口)、▽3・31 八代に畜産団地完成、▽4・1 ごみの全町収集を開始、▽6・12 但馬国分僧寺の発掘調査を三カ年計画で開始、▽7・1 国府テラス区が誕生(町内の区が69となる)、▽7・12 三方小学校プール完成、▽8・3 第七回県ボイスカウト合同野営大会が神鍋で開催、▽8・9 カントリーエレベーター完成、▽9・3 日高中部土地改良区設立、▽10・20 森垣壮町長無投票再選、▽11・5 三方地区県営團場整備始まる、▽11・29 町内で初めて消雪道路が完成(江原区)、▽12・21 上水道第五次拡張事業着手

1・30 大雪(西気小学校庭1メートル80)、▽3・25 府中小学校増改築工事を完了、▽5・1 特別養護老人ホームたじま荘開設

2・6 神鍋十戸温泉がオープンする、▽2・14 府中幼稚園新園舎建築落成、▽町表彰条例を制定、▽2・25 議員定数24名を20名とする、▽3・10 特急はまかせ号江原駅に停車、▽3 日高小学校増築完成、▽3・23 静修保育園完成、▽4・1 清滝保育所開設、▽7・26 水道事業所(岩中浄水場)竣工、▽7・17 清滝小学校プール完成、▽8・9 八代土地改良区設立、▽9・24 森垣壮町長退任、▽10・1 国勢調査実施(人口、一万九三九四人)、▽10・24 第四代町長、長沢昂当選。

年	昭	昭	昭	昭	昭
一九七六	昭和51	昭和54	昭和55	昭和53	昭和52
一九七七	昭和52	昭和54	昭和55	昭和53	昭和52
一九七八	昭和53	昭和54	昭和55	昭和53	昭和52
一九七九	昭和54	昭和55	昭和56	昭和53	昭和52
一九八〇	昭和55	昭和56	昭和57	昭和53	昭和52
一九八一	昭和56	昭和57	昭和58	昭和53	昭和52

▽1 豪雪神鍋で三メートル交通大混乱、▽4・17日置橋完成、▽8・27日高町史上巻発刊式、▽9・8 台風17号来襲、▽10・2 上郷出身植村直巳北極圏一万二〇〇キロ犬ゾリ走破講演会、▽11・11 日高区名誕生、▽この年 第一回神鍋火山まつり開催
 2・2〇3 高松宮杯西日本スキー大会神鍋で開催、▽3・18 北但信用組合日高支店開設、▽3・29 県文化財指定（榑縫古墳）、▽6・1 第四次但馬国分寺跡発掘調査、木簡等出土、▽7 三方地区圃場整備第一工区（久斗、道場、夏栗、久田谷）工事着工、▽7・29 神鍋簡易水道拡張事業着手、▽8・25 八代小学校プール完成、▽10・10 日高病院新館完成、▽12・15 「虹のまち」完成し入居初まる
 2・20 静修小学校改築完成、▽3 府中小学校増築完成、▽3・31 文化財収蔵庫完成、▽3・17 県文化財指定（長楽寺の散り椿）、▽8・8 日吉の駅前商店街誕生、▽9・15 農村環境改善センター完成、▽10・6〇10 ハンググライダーデイニング日本選手権神鍋にて開催、▽12 神鍋スキーリフト相次ぎ完成（全部三十五基）。
 4・3 蓼川第二保育園竣工、▽7・22〇27 第27回西日本学生軟式庭球選手権大会が神鍋で開催、▽10・18 台風二十号来襲、▽10・19 町長選挙、長沢昂再選
 4・5〇6 神鍋サンツアールロードレース開催、▽5・30 日高町史資料編発刊式、▽6〇8 異常気象による冷夏で農産物被害甚し、▽7・16 団体管西気土地改良区設立、▽8・30 「第一回兵庫・神鍋高原マラソン大会」開催約五百人参加、▽10・1 国勢調査実施（町人口、一九、四一五人）。
 1・13〇 北陸・山陰豪雪（町内中心部で74センチ）、山間部で2メートル、▽3 西気地区コミュニティセンター完成、▽4・26 三方地区県管ほ場整備土地改良記念碑除幕式、▽5・1 鶴岡土地改良区設立、▽5・13 浅倉土地改良区設立、▽6・

3 ポートピア81神戸博にそごだる節外町特産品披露、▽7 但馬国分僧寺跡第六次発掘調査、▽7・23 歩道橋完成、▽8・30 第2回神鍋高原マラソン大会、▽9・20 三方地区基幹集落センター完成、▽10・14 神鍋簡易水道第2次拡張事業はじまる、▽10・24 第一回健康まつり開催、▽11・24 日高町役場新庁舎オープン、▽12・25 清滝会館完成。

七、日高町内大字小字一覽(町村合併時昭和三十年現在)

一、国府地区

大字名	小字名
松岡	菅本、隈中、イツチガイ、御供田、ウタウ塚、深田、八丁、築地ノ内、鶉ノ巢、大坪、川岸、猪ノ足、二ツ熊、矢田部、宮ノ後、淵ノ上、森ヶ坪、田中、家ノ後、藪ノ下
土居	隈中、イツチガイ、狐隈、大沖、赤ガリ、カリノ、カナゲ田、ヨドメ、ヤタバ、塚本、フクリ引、柳、石堀、外原、三女寺、長トウロ、大橋、稲口、山神、野田、田中、池田、岡ノ後、長塚、長見寺、天神、宮ノ前、上川原、下川原、土手原
上ノ郷	坂口、漆原、金堀、宮ノ後、此内、西ノ谷、今林、榎ヶ坪、三通リ、中田、瀧谷、大將軍、荒神田、才谷、池端、大坪、的場、殿屋敷、和田、川原田、庄田、奈良谷、安土、太田、池田、山谷口、八王寺、深田、岩谷、下川原、小川、満仲、中川原、油田、朝間ヶ嶽、大門、竹ノコセ、南住、馬場、前畑、ハサガイ、野竹、山根畑、島、十二石、稲葉、車瀬、大岩谷、鹿川、小岩谷、関谷、酒屋ヶ谷、豆ヶ谷、小豆ヶ谷、城山、ほき、黒谷、宮谷、山谷、田ノ陰、落シ、三ツ尾、豆谷
府市場	牛ハギ、南菅原、北菅原、深田、西築前、西男牛島、高山、外原、東男牛島、東築前、道越、横枕、杉田中、稲口、竹ヶ花、穴田、岡ノ後、今郡、工田、家ノ本、長塚、岡ノ上、国明ラ、神道、西手辺、土手下、新田、藪ノ内、芝寺、手辺上、中島、土手外、東手辺、権現、忝反畑、検見、大工、寄藪、椿根、沖野々、牛ノ口
府中新堀	新田、受所、町ノ後、桑原、六反田、長田、左大目、石ヶ本、戸柱、土器田、ヒツモリ、道越、美女塚、木ノ牧、七反、大目
	アトツガイ、ヒツモリ、立田、天神分、下傘木、西傘木、東傘木、上江原、下江原、五徳田、下荒木、上荒

七、日高町内大字小字一覧

二、八代地区

藤井

井戸口、在中、山田、鍋ヶ谷、片場口、蛇珍場、唐田、細谷、石場谷、山森、大山田、家ノ下、蛇ヶ谷、道添、東ノ下、流田、川田、中森、稲葉、イセキノ岡、イトキレ、川尻、鎮中、大木屋、五反田、道ノ本、コセ

野々庄

木、上三原、下三原、五反田、ムツ木、フタマゼ、ウダ、桜本、上池田、アコヤ、芝原、池向、上新田、上芝原、実谷、池端、宮ノ上、宮ノ下、池尻、寄敷、下猪ノ田、上猪ノ田、下中野、上中野、上ヲリト、下ヲリト、下高畑、上高畑、中野々、沖野々

池上

西畠、下小屋、川田、八王子、池田、スヘナシ、神田、ナハテ下、鳥辺、熊ヶハナ、尻広、大深、松葉、西大深、アリ島、土器田、南八代田、高川原、沖野々、丸池、上川原、高畠、鳥ノ木、中畠、前畠、中嶋、小向野、宮ノ下、カクラ

西芝

角良、西猪爪、東猪爪、久保田、粟田、船ペライ、鳥辺、ユルギ、生田、池田、細登り、八王寺、王寺、高嶋、京白、赤ヤケ、名小路

(東芝)

殿屋敷、中島、大向、西一ノ割、古新割、東一ノ割、東二ノ割、長田、西猪爪、大向野、岡ナシ、舟ペライ、下岡ナシ、長刀、地獄、西地蔵り、曲橋、藤並、東地蔵り、キツカケ、中ツブラ、イガイ、柳、高屋、渡り田、細登り、名小路、南畑、嶋外、西殿屋敷、城ノ内、東猪爪、清水、立島

上石

清水、下川、南畑、大畑、中島、向野、下立島、ホヲキノ下、松枝、殿屋敷

竹貫

上石畑、下ノ田、クゴ、島ヶ枝、東松ヶ枝、ケノベ、渡り田、西松ヶ枝、松ヶ枝、塩辛、高屋、イガイ、沼ノ本、コズ、森谷、コズ谷、水生、ホウキ

南八代田、代井、中八代田、北八代田、川田、大田、宮ノ前、長谷田、曲り橋、汁谷、家ノ前、弘法寺、宮ノ下、イガイ谷、堂谷、木内谷、梅谷、宮ノ谷、カツエ坂、山開、森谷、細谷、サイ谷、小高谷、高ヘライ、金堀、アヅキ谷、小三郎、イナイ谷、堂谷、大目

奈佐路	<p>マへ、荒畑、古藤井、東ノ上、円山、西ノ上、落シ、大木谷、藤井ヘラエ、境森、片場 平池、家ノ下、赤土田、由利、枋谷、篠谷、南ノ下、石田、明神谷、休場、仏岩、寺林、細谷口、釜ヶ原、出 合、堂ノ下、コモ坂、知生、柳谷、梶垣、縄手、生死谷、イセキ、花松、大嶋、一ノ谷、村ノ内、花松ノ下、 宮谷、法付谷</p>
谷	<p>河原、桑外、宮ノ下、奥ノ谷、屋敷、大町、柳谷、築山、大外、東谷、向麻町、谷前、本苗代、城山、向フ 山、杉田、倉谷、鴻ノ巣、池田、西谷、鐘ヶ鳴、由利、畑地、大ナル、大谷口、島田</p>
中	<p>アカフ谷、鳩峯、矢谷口、ツヤノ谷、ツヤノ谷口、大道ノ上、家ノ奥、ドウドロ、宮ノ下、大坪、五反田、大 田、カセ淵、砂、南谷口、南谷、サイゴ原、法花寺、宮ノ谷、篠坂、川向、桜谷、向山、ドウド、サコ、三本 木岡田、田岸、大門、ドウドウ、天神、畑ヶ田、谷川尻、玉谷、細谷、公田、潤谷、平尾、竹谷、宮ノ向、苺 谷、下塚、石引、空田、祢布坂、菖蒲谷、家ノ下、岡畑、東谷、西ノ谷、岡ノ下、清水、家ノ上、ナツン谷、 クロウ谷、家ノ向、大岡谷、サコ、大道</p>
八代	<p>谷川尻、知福、宝沢、稲葉、鴻ノ鳴、大道、一原、榎木坂、猪尻、大畑ヶ、一ノ谷、熊谷、大末、田ノ口、清 水ヶ谷、堂ノ谷、堂屋敷、袋谷、岡田、滝ノ谷、穴ノ谷、小穴ノ谷、笹山、水ハミ、武者ヶ谷、捲リ谷、半 坂、中嶋、畦高、平尾、桐ヶサコ、空田、陳田、丸山、大丸山、小丸山、堀越、南山、城後、七祢、スカラ、 枋本、峠谷、丸岡、向山、城ノ下、宝城、峠尻、堂沼、</p>
河江	<p>大岡坂、法曾谷、垣ノ田、大ノ田、京田、出口、老ノ谷、休石、落シ、家ノ向、三反田、田中屋敷、堂ノ後、 カケ田、コウロ、菖蒲谷、比曾谷、大木ノ下、西垣、浪谷、大林、フクロ谷、峠谷</p>
小河江	<p>庄境、ヒツ谷、中黒、柱谷、蛇谷、蛇谷口、妙寺ヶ尾、大畑ヶ、ホエ田、障子田、ツブテ岩、比津谷、蛇谷川 向野部、北ノ谷、東西、村ノ内、巳んざな、大ナル、カ子井バ、東善寺、七郎兵エ田、横道、クゴ、四ツ町、 小清水、小田、ホウソノ谷、安楽、内羅、引芋、般若、管ヶ町、阿瀬谷、蛇谷、大柞、大谷、平ラ地、笹尾、小 馬ヶ所、彦町目、法曾谷、西野々、小屋ヶ成ル、荒田、場屋敷、井瀬ノ奥、才町、大タハ、大岡坂、安楽寺、 清水、三拾代、三ツ石ヶ成ル</p>
大岡	

三、日高地区

久田谷	道場	久斗	赤崎	浅倉	岩中	宵田	江原
マ、楮畑、大谷、櫛田ヶ原、横山、アマオ、井ナイ、松ブラ、ソヲザガ谷、細ザコ、滝ヶ谷	逢喜ノ上、中ノ丸、船谷、向山、元ヶ谷、城山、大谷 ヨッパシ、クツド、トユスミ、イヌマイ、タカボコ、道場向、片田、一反所、丁田、糠坪、ジイガ谷、栗ノ下、稲岡、上山、小坂、ヘタ、中井谷、梅ヶ谷、高鉢、大キシ、山ノ神、船南谷、赤花、柳ヶ谷、下勝谷、ヌ	尾、山ノ神、汁谷、ソウボウ谷 大木、一本木、水クゴ、町田、クツド、伊府田、市場、山田、セツボ、滝谷、立尾、大平、オコウ谷、天平、	逢畔、道ノ下、慶イ谷、狼岩口 山方、下野、中ノ瀬、江川、広瀬、上野、森ノ下、川原、山根、開キ、沖畑、向野、森谷、矢ノ谷、進美、家	下リ場、彦畦、一本木、尾川、長谷、寺谷、蛇ヶ谷、松嶽、ケイ谷、下高山、中坂、向山、念仏箱、赤尾、岩	沙門、蝶子谷、城山、上森、家ノ下、大谷 小山崎、道ノ上、小川北、宮ノ前、宮岡、深田、木船、オノ木、早魁田、岡田、上森、畑ヶ田、南ノ岡、奥谷	竹ノ内、番城塚、焼辻、深田、幸町、野巻、常盤、七反 焼辻、東柳、中坪、荒堀、七反、荒田、松ヶ花、山田、郷境、才塚、下坪、上河原、小川、鉾立、小山崎、昆	北焼辻、南焼辻、大藪、江ノ原、東幸ノ神、西幸ノ神、天神、蛭子田、高田井、立安田、八幡、中町、新町、 常盤、本畑、七反野、岩出、下町、杉ノ本、大谷、猿谷、クゴ

夏栗	祢布	国分寺	水上	山本	鶴岡
<p>浪滝、桜田、来日繩手、流田、里ノ前、岩井谷、種畑、寺口、堂ノ奥、観音畑、穴谷、百合地、山王田、イヌトリ、滝谷、兎谷、大ヅ、八反田、六反田、厩田、水クゴ、四反坪、宮見、家ノ下、堂田、下高内、道端、高内、焼辻、大坪、見田、深田、井口、荒田坪、条勸寺、五反田、下坪、マガ谷、越ノ宮、大月、東尻、小谷、尖リ山、菖蒲谷、カセムラ、俵山、豆ヶ岬、カザト、下ノ谷、矢行ノ上、無所ノ尾、葛山、岡祭、家ノ上、寺ノ下、ケカチ谷、ヒロ谷、下山、山王山、秋葉山、八坂山、上ノ谷、堤ヶ谷、ミタ、東山、柳ヶ谷</p>	<p>ウガイガハナ、亀谷、小垣、菖蒲谷、高尾、祢布谷、田入谷、クルビガサコ、ナルダ、滝ノ上、ナワ谷、椿、大石、コガイ谷、堂ノ前、一ツヤ、クロガイ、定谷、石ヶ坪、清水、梅ノ尾、サヨリ、祢布ヶ森、ガケガ森、井森木、ツバ草、北構、南構、松ヶ鼻、丁子、モン谷、原谷、家ノ脇、木内谷、野原、家ノ上、四反畑、下山、奥山、赤穂谷、四反谷、タラ谷、城山、堂ノ谷、九十谷、アヅチ、滝ノ尻、二ノ谷、一ノ谷、サコ、井セキ、真谷、小垣谷</p>	<p>八丁、鯉川、下中坪、熊中、四十伝、谷ヶ本、中坪、上中坪、分田、阿弥陀田、矢組、仏生、千田ヶ坪、竹ヶ下、家ノ中、堂ノ前、家ノ下、祢布ヶ森、大門、見取、本畑、地藏畑、谷口、山ノ脇、ミドリ、ヒモジ、城山、家ノ上、天神、藪ノ内大門</p>	<p>岡ノ下、深田、茶ヤノ木、細見、三反長サ、桃ヶ坪、河谷畑、尼堂、下ヤタ、上ヤタ、ヤタ、ガクラン、観音田、稲葉、小弥田、竹ノ下、ヒヤヶ田、谷田、谷家ノ奥、小谷、上ノ山、ミドリ、家ノ前</p>	<p>カハナベ、小中、ハイカイ、法花寺、大谷、熊田、水町、前田、奥谷、アンナイ、田ノ岡、アトチガイ、牛ハギ、岩谷、川谷畑、堂奥、堤谷、バンガミ、ベツソヲ、西垣、大ナル、ミミイ谷、耳谷草山、尼ヶ宮</p>	<p>鶴ノ巢、二ツ橋、八丁、地藏田、保木、南内台、北内台、植地、上へ中、馬場先、新井田、山下口、堤口、堤、本田、毛坂、丸山、丸山ノ下、菖蒲谷、新林、尾谷、腰細、颯塚、森垣口、森垣、朝柄、朝柄口、諏訪ノ下、丁田、岡ノ下、矢納谷、来、土器田、大隈、福中、七日飛田、雀塚、角田、樋詰、石郡、梶田、護磨田、大塚、川越、中嶋、土隈、唐杉、鳥居木、弓ノ木、水通、下川原、石垣殿、山根、小坂口、家ノ後、渡リ上リ、向畑、勘定下、岡、和田山、祢田原、島、宮ノ谷、漆原、寿留貴、大杉、亀岩、袋谷、家ノ奥、桜本、勘</p>

四、三方地区

日置	篠垣	伊府	佐田	知見	森山
定山、大谷、小中、城山 矢組、谷、法尺谷、カヤ谷、柵田、河原田、荻谷、中谷、長尾、狛谷、峠、西河原田、東河原田、久語田、熊中、下河原、姫路、靱塚、前畑、島、羅井、寺坂、苺ウ谷、大谷、ナメラ谷、上猿谷、上峠	新町、横枕、鋤ノ先、南、屋敷田、宮ノ上、的場、稻荷ノ下、村ノ内、岡畑、東、苺又、堀詰、中島、流田、鍵田、前敷、向田、一ノ宮、家ノ下、助屋敷、瀬戸川原、天神、川端	西、大木ノ本、坪ノ内、家ノ本、宮ノ下、ドウド、岡ケ端、寺ノ前、堂ノ前、井殿、細畑、菖蒲田、クズレ、和田ノ下、番所、池田、金島、コモ池、鑄師ケ淵、ヌクユ、高垣、チドミ、霜月田、アワラ、垣添、大畑、寺所、法通、下川原、水ツドイ、湯田、大塚、丁田、大田、東無名高、井尻、西無名高、鞆田、松ノ本、横山、野添、ハサコ、南良所、滝窪、コエゴ、池ノ内、西向、上川原、堂ノ本、御所山、下家ノ本、川ノ辺、向野、村岡、墓所ノ上、広芝、向池ノ内、鍛冶畑、坂畑、稻荷、城山、細谷、寺ノ上、大谷、中ノ丸、和田ノ上	蔵谷、谷田、柳ケ坪、法妙寺、杉ノ下、半崎、荒田ケ坪、ヒワダ、丁田、池田、京塚、下前田、嶋ノ前、下坪、川原、下川原、前田、矢谷、当田、雪摺口、天畑、西穴、芝原、トイシバ、梨子成、峠、マナアゼ、ジャウミ、北塊、中島、猿木、猪木谷、横谷、大日シロ、タイトウ、野滝、宮越、岡畑、アチラガ谷、下中、中辻、寺山、イナリ、城山、宮山、東山、京坪、西山、上中、向川原	大田、蔵谷、下山田、上山田、美組谷、梨谷、下椋田、若衆谷、中椋田、上椋田、荒神、猿ケ田、清水、明谷、鎌林、久田谷、貝谷、河原中、犬神、濁り、萱堂、椿谷、柳谷、宮代、坂、小杉、大谷、荒田、片角、杉田、河田、辻田、吠ケ作、葉作、岩ケ端、宮ノ谷、安原、室谷、梨木ノ下、見越、前田、安坂、地殿、湯田、国石、天王、蓮台寺、赤城、コシキ、坂	砂田、西、樽見、カホシ、間口、間、辻田、横枕、寺ノ下、池ノ尻、ヒイナキ、阿原、八斗女田、久保田、大

観音寺	<p>坪、東、竹ノ子田、松ノ下、川尻、間奥、南谷、ヒゲリ砂、丁田、間イナバ、西谷、東谷、丸山、越タワ、マセ原、ムキロ谷、ヒジリ砂、護神、赤城</p> <p>森山後、樽見、杉ノ木、井口、万ヶ谷、百合谷、味噌谷、中嶋、松井、寺山、寺山口、狗天、申筋、大門先、荒神前、殿屋敷、笠ヶ谷、大ス、万場谷、川原、本坊、寺谷、岩谷、味噌谷口、塚ヶ谷、助本谷、片角、下塔、向山、地藏ヶ谷、寺谷奥、櫛谷奥、櫛谷、妙ヶ谷、梅ヶ谷、八ツ尾、三宅、音寺向、上音寺、瀧谷、猪子谷、城山、生蒲坂、奥郷、タナミ、目薩、峠、立山、桑ガイ、大風呂、小ガイノ、音寺、鎌ヶ谷</p> <p>宮ノ下、下野々、谷田、井口、上田地、西ノ田、前田、上大谷、下大谷、水頭、大ナル、熊ヶタワ、一本木、下音寺、芦原</p>
栗山	<p>新町、岸ヶ下、樋バシ、三ツ町、野田川原、アセ坂、寺山、近江谷、清福、堤、上川原、内籠、下川原、一丁坪、下野、湯田、上金野、上野、向台、アチラ山、金野、八ヶ谷、清福山、荒神山、ユウ山</p>
殿	<p>角、イノ尾、カラナシ、アソウ、アセン坂、荒砂、東門、藤原、大沢、柵田、フンズ、溝越、八幡田、山ヶハナ、古宮、蔵掛、荒神、松本、柳縄手、向中、大谷、クルビウ、前田、北中、下戸吹、矢ノ、向山、下中谷、小田谷、越前、赤カン、心谷、須山、上中谷、古屋ノ谷、吹谷、上ノ山、城山</p>
羽尻	<p>越前、矢野、下川原、広瀬、三堂殿、日暮、志恩谷、上広瀬、下川畑、川畑、上川原、金谷口、川向、金谷、大良、タキツボ、大休、小源太夫、若林、家ノ上、宮ノ下、宮ノ前、西畑、幸四郎屋敷、穴尾、六石、下川原、大蔵口、三枚、古屋敷、金山、連鉄、寺谷口、万宝谷口、百合、入道、梅ヶタワ、荒檜、坂根口、文三、弥陀ヶ谷、戸石場、柵田、九拾九町、中尾、スゲ田、堂ヶ平、湯ノ原、ホウヶ谷、クラジタ、ユヅロ、中山、長作、ウス岩、山神、サクラ落、横谷、分尾、多々木、多々木坂、岡、下畑、下ツン谷、上ツン谷、和田、見知山、トナセ口、分尾口、向井山、ツン谷、赤土谷、メゲタワ、大サンド、上ノ山、大手、下モ山、不動坂、ミミ谷、宮ノ谷、小室、幸森、喜十郎谷、細作、犬山、墓方谷、ソブタキ、タカノス谷、多十郎谷、火ノ手、長トロ、大谷、寺谷、間杉、迎山、本谷、大栃谷、ウド谷、狼ヶ平、ナメラ谷</p> <p>大安、ナラギ、入角、向田、蔵山、古屋、前田、貝田、姥ヶ砂、大田、助谷、仁ヶ竹、大谷口、ヨカウ、ハヤ</p>
田ノ口	

七、日高町内大字小字一覽

庄境	野	芝	荒川	猪子垣	広井
<p>ナワテ、流田、カナベ、大鳴、ザトウ谷、蔵谷、土生、湯替、夫婦岩</p>	<p>西御堂、神田、宮ノ越、川野、アハラ、鎌田、溝上、井戸ノ前、八幡田、角田、北ノ後、谷田、大平、古宮、火打岩、梨子ヶ谷、岡山、若林、木経寺、堂ノ後、的場、岡ヶ鼻、道越、張町、姫谷、引坂、広谷、返坂、野添、中田、滝ヶ久後、番昌田、小林、中道、稗田、穴田、南、前田、石ノ塔、池ノ内、御所山、大久後、栗ノ下、鍛冶ヶ前、三所、郷野、由ガイ、横山、桜岡、廻道バタ、ズリバ、大ヘライ、三谷、村岡、桑坂</p>	<p>大田、奥ノ段、横枕</p>	<p>松濤、東、金甌、前田、稲葉、井田、ナカラ田、林畑、潰堂、宮ノ本、宇龍嶋、塩田、福岡寺、野中、岩田、野、上ノ山、牛フセ場、御所山</p>	<p>当場、金野、下野、向稻葉、古金野、大金野、大縄手、知野、縄手、西川、妙婦、滝ノ岡、正町、村ノ上、村ノ内、後ギ、大田、長峰、奥長峰、クゴ、家ノ上</p>	<p>コ、沖ノ田、ヨツエ、源内田、小判谷、ユリノ下、畝ノ上、ジャバミ、十戸坂、ウス谷、東良、向山、クゴ田、宮ノ上、川クゴ、辰ノ口、岩井谷口、豆上、渡リ上、奥田、矢ノ谷、田方、虫尾口、ハナト、大谷、暮坂、小谷、宮ノ谷、森ノ下、中島、万場谷口、橋ヶ谷、上リ立、万場谷、妻ノ神、家ノ上、舟上、岩井谷、虫尾、滝谷、清瀧、室谷、アミダ堂、クゴ山、申子畑、林ヶ谷、梅ヶ谷、下大谷、貝谷</p> <p>堂ノ下、家ノ下、角田、尺川、下金野、留岡、砂田、男鳥、佐尻、金野、貝ヶ坪、高原、上佐尻、中塚、藤ヶ森、八畝田、丁田、四ツ辻、井田、大畷、綾田、塚ヶ坪、山ヶ鼻、杉田、上杉田、初田免田、大安、大井津、大尾、南口、高見、尺山口、谷田口、宮ノ下、祭神、五反、杉ハナ、大平、尺山、谷奥、南、入道</p> <p>砂田、上代、堂ノ前、家ノ前、荒堀、久保田、シデガ下、天社、大安、山添、ワセ田、フチノ上、野中、半ナギ、大田、長峰、奥長峰、クゴ、家ノ上</p>

五、清滝地区

十戸	頃垣	石井	山宮	栃本	神鍋 (太巴)
流田、木原、シマ、観音堂、中ノ池、小池、新代、無正伝、カナベ、倉谷、柳谷、清坂、梅ヶ坪、滝ノ尻、滝ノ上、野、小山	小山端、町田、案内、柳谷、薬師堂、下り口、桑原、観音堂前、下り戸、北垣、東高塚、高塚、大池、荒堀、溝ノ向、上り立、深田、瀬戸尻向、西坂、瀬戸尻、坪ノ内、クゴ川、前川、才神、宮ノ前、谷、前田、稲葉崎、坂谷、上ノ岡、古宮、岩本、御中門、御中門岡田、妻会、松谷、初仙所、比曾口、往還端、上野、楮畑、柄戸端、大畑、イモジ谷、岩倉、峠ノ向、御中門南平、御中門北平、御中門北平西、トツ坂、比曾谷、西坂、奥谷、大平口	山裾、前田、宮後、本谷、堂向、土田、宮向、稲葉、柿ヶ坪、中ノ瀬、大坪、ヒル田、東谷、センシバ、高苗代、カイト、白鳥、ハセン、ワキ谷、クゴ、弁才天、古川、境目、上野、下野、ヒナタヲ、ウルシ谷、ジャバミ、石ノ辺、道ノ下、本谷、柿木谷、桐作、落シ、マツリ神、イモジ谷	寺坂、縄手、安楽、清水ヶ谷、京水、ハンニヤ、下ノ谷、前田、垣ノ内、上住、長崎、後大地、上垣、鱒山、石休、向山	ミダノ瀬、本谷、流田、山根、下モ、岡、早稲田、宮脇、根笹、尾谷、前田、越前、榎田、西越前、細尾谷、横山、山ノ神、池谷口、岩井谷、井瀬、六十分、岡田、クゴ田、滝ノ上、上古川、西畑、井瀬ノ尻、西井瀬ノ尻、前畑、堂ノ後、竹中、広瀬ノ向、橋ノ向、板橋、広瀬ノ向西、大道バタ、休石、沢山畑、崩、爺柳、チガラ、下モ大クゴ、中野、大道添、ソトワ、ガウロ、横山、大ナル、ヨタニ、広瀬ノ上、丸林、垣ノ内、滝ノ尻、小笹原、池谷、峠、水呑場、滝ヶ谷、水生谷、宮ノ上、岡ノ上、下モ清水、岩倉、正丁寺、上稲葉	下坪、淀、向下坪、小城坪、四ツ辻、訓原、小野、縄添、城山、横縄手、東、西、梅ヶ坪、大谷、宮ノ前、屋敷、宮ノ後、子ツテ、垣ノ内、比曾寺、大クゴ、棟橋、休石、古池、堂々、上野、大尾、カナベ山、中道、ウシン谷、坂、照山、シワガノ、笹尾、ミダレ尾、北野、氏谷、プリ山

名色
中筋、西垣、縄手、釜脇、崩レ、田中、北町田、下堂、下野、ジシキウ、太田、福本、木ノ本、クゴ田、南町田、男山川原、男山小谷、スゴウ、中川原、小スゴウ、作り道、戸板、佐生里、島崎、岩井谷、寺屋敷、岡ノ丸、塚本、男山清水、石ケタワ、双川、南太田道、後野、大クゴ、狼岩、北太田道、狐穴、男山、シワガノ、シヨウブ谷、大谷、水谷、エノ木坂

六、西気地区

万場 クゴ田、フケ、小谷、松ノ下、田入田、堂ノ前、鎌木、欠内、シンサヲ、市尻、下畑、南中、畑ケ谷、ノマ、上畑、宮ノ上、奥田、ヘシロ、大ヘラド、ヨトシ、清水、反谷、ゴラスケ、城山口、スゲ原、宮ノ後、北川、稗ケ原、イゼロ、中筋、向ナンバ、トイシ、中畑、向野、城山、成林、池ケ平、仲ザミ、栃ケ平、添越、マガリ、カマン林、金山、大滝、大杉	神鍋 (粟栖野) 伊井ノ山、ブロン谷、波サコ、下粟栖野、猪爪、前田、長ケ谷、草田、岡ケ森、河原、クゴ田、餅稲田、蒲田、赤坂、鎌田、一反生田、ソリ杉、堂分、溝マダケ、ソウケ田、荒田、雀ケ森、一本柳、間鍋越、寺ノ後、平田川、塚ノ本、一本木道、中道、勘ノ蔵、西山、橋ノ下、西ノ宮、法成畑、垣ノ内、長者ケ森、馬ケ本、谷坂、皷ケ野、下林	山田 長ケ森、長ケ後、長ケ鼻、クズレ、アハラ、下山根、中田、杉ノ本、前田、番上、熊田、クゴ、ドウガクゴ、トイガカリ、赤河、大柳、栃ノ木谷、妹、オノ本、下中、上山根、イガミ、中野、奥中、柴、丸岡、井上ミ、中林、ケンガハナ、向山、扇ノ間、長平井、流ケ谷、金谷道、シミガマ、ミズヒ、袖原、平林、岡中	万劫 石谷、前田、栃木谷、中田、川原田、オノ本、迎田、栗ノ本、奥田、滝ノ谷、谷奥、神子谷、栃木山、寺谷、古地畑、沼ノ谷、木地屋谷、丸山、マガリ、栃ケ谷	稲葉 寄茂、中ノ坪、岸ノ下、前田、堂仏、杉谷、上ノ田、水井、京田、クマ中、針畑、向田、木地屋敷、井瀬口、ウツル谷、家ノ奥、馬場谷、岡、柿木下、明神谷、ミセノ岡、空林、オバガ谷
--	---	---	--	--

東河内	水口
宮ノ前、東田、鎌町、大田、堂ノ下、中ノ坪、堀ノ岸、岡、菅谷、荒畑、宮ノ前、下山、才ノ下、芝原、西ノ谷、峠下、東芦野、奥山、宮下、坂奥、向山、森向、カナベコシ、四ツ辻、地藏上、上野、狐坂、ナル、高稲葉、大机、カマワケ、カナベガ山、西芦野、芦野、横尾、岡ノ御堂、勝田谷、滝ノ尻、勸ノ上、落シ、ナメラ谷、本谷、城山、ハイヲ、小谷、中筋、杉谷、登坂、大谷、登坂、城山	宮ノ前、東田、鎌町、大田、堂ノ下、中ノ坪、堀ノ岸、岡、菅谷、荒畑、宮ノ前、下山、才ノ下、芝原、西ノ岡、赤ケ鳴、村ノ奥、西山、東谷、大鳴、向山、蛭ケ谷、ナメラ、松ケ尾、大岩ケ谷、登リ尾

八、気多郡内学区編成一覧

八、気多郡内学区編成一覧 (明治七年)

(養父郡宿南村城崎郡奈佐村の一部を含む)

小学校	校名	所在地	学区	戸数	人口
四一番	宿南学校	宿南村 (養父郡)	赤崎村 (現日高町) 浅倉村 (現日高町) 宿南村	七一 九一 二六四 五八	三四二 三九八 一、二六八 二二〇
計	計		五力村 青山村 三谷村	五一四 三〇 五八	二、三六二 一三四 二二〇
四二番	東柳学校	宵田村	江原村 宵田村 岩中村 地下村 祢布村 国分寺村 石立村	九八 七三 三一 一〇 八六 五一 二五	四一八 三〇二 一二五 四三 三八〇 二〇九 六五
計	計		七力村	三六四	一、五四二
四三番	久斗学校	久斗村	久斗村 道場村 久田谷村	一〇九 三七 七七	四九九 一八九 三七〇

小学校	校名	所在地	学区	戸数	人口
四四番	栗山学校	栗山村	伊府村 篠垣村 佐田村 知見村 森山村 観音寺村 海老原村 栗山村 殿村 田ノ口村 広井村 猪子垣村 荒川村 芝村 三所村 野村 庄境村	六二 二五 六八 一〇七 六三 一四一 六七 五二 八五 四八 二七 三一 四四 七 七〇 三一	二九一 一二二 三一五 四一〇 二九三 五五五 二五 二六二 二一〇 三五二 二二九 二二〇 一三二 一八〇 二八 二九五 一四三
計	計		四力村	二九四	一、三七七
四五番	羽尻学校	羽尻村	夏栗村	六九	三一九
計	計		一七力村	九三五	三、九九二
計	計		一七力村	一二六	五八四

第六部 資料

五一番	五〇番	四九番								四八番	四七番	四六番							
鳩峯学校	椒学校	三原学校	計							共存学校	栃本学校	石井学校							
中村	椒村	三原村								東河内村	栃本村	石井村							
八代村	椒村	三原村	七九村	万却村	山田村	栗栖野村	万場村	東河内村	稲葉村	水口村	四ヶ村	名色村	太田村	山宮村	栃本村	三ヶ村	頃垣村	石井村	十戸村
七四	一三四	七四	三三二	三九	六〇	六三	四九	六三	二七	二二	三〇九	七八	九五	八四	五二	二〇一	五七	九三	五一
三一三	六九九	三九二	一、五二四	二〇四	二九六	二九四	二一〇	三〇三	一一九	九八	一、四二五	三七五	四一七	三九四	二三九	九三六	二四一	四〇五	二九〇

					五三番						五二番									
					府中学校	計					伊福学校	計								
					府中新村						伊福村									
府中新村	野々庄村	池上村	西芝村	東芝村	上石村	竹貫村	八ヶ村	上ノ郷村	日置村	伊福村	山本村	水上村	松岡村	多田谷村	土居村	藤井村	奈佐路村	谷村	中村	猪爪村
五八	六一	二七	六四	七	四〇	三八	六三八	一六五	七七	一八二	五〇	二三	三六	二二	八三	二七四	四〇	三八	四〇	四〇
二四八	二七二	一一一	三三一	一七九	一九〇	二、八五二	六八二	三二三	七六二	二六七	一一八	一九三	一〇七	四〇〇	一、二〇六	二一八	一七九	一六七	一六四	一六五

八、気多郡内学区編成一覧

	八 一 番 辻 学 校	五 四 番 引 野 学 校		
計	辻 村 (城崎郡)	引 野 村	計	
	内町村 辻村 目坂村 舟谷村 小河江村 (現目高町) 河江村 (現目高町) 大岡寺村 (現目高町) 七力村	清冷寺村 土淵村 中ノ郷村 加陽村 四力村	堀 市 場 村 九力村	堀 村 六〇 一〇四 四五九
	五〇 五一 六四 一八 一五 三三 一二 二四三	七八 七五 一二二 一三七 四一二	二、 一六四	二九三 五一二
	二〇八 二二一 三〇五 六三 七三 一三一 六二 一、〇六三	一、 八七五		